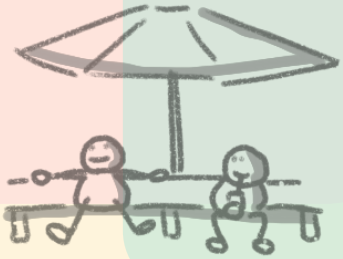
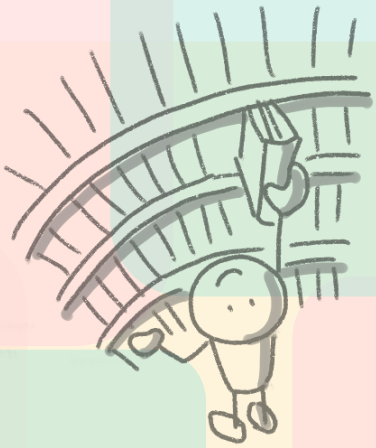
（仮称）

加西市未来型児童館
整備基本構想

令和5年3月加西市





目次

第1章 基本構想の策定にあたって 1

第2章 子育てを取り巻く環境 3

1. 子どもたちを取り巻く動向・社会潮流 3
2. 加西市の子育てに関する現状 4
3. 市民ワークショップ 13
4. 加西市の子育てに関する課題 19

第3章 施設の目指す姿 20

1. 基本コンセプト 20
2. 導入機能 23

第4章 建設候補地の検討 26

第5章 未来型児童館の事業スキーム 32

1. 本事業への適用が想定される事業手法 32
2. 事業スケジュールの検討 36
3. 事業手法の評価 36

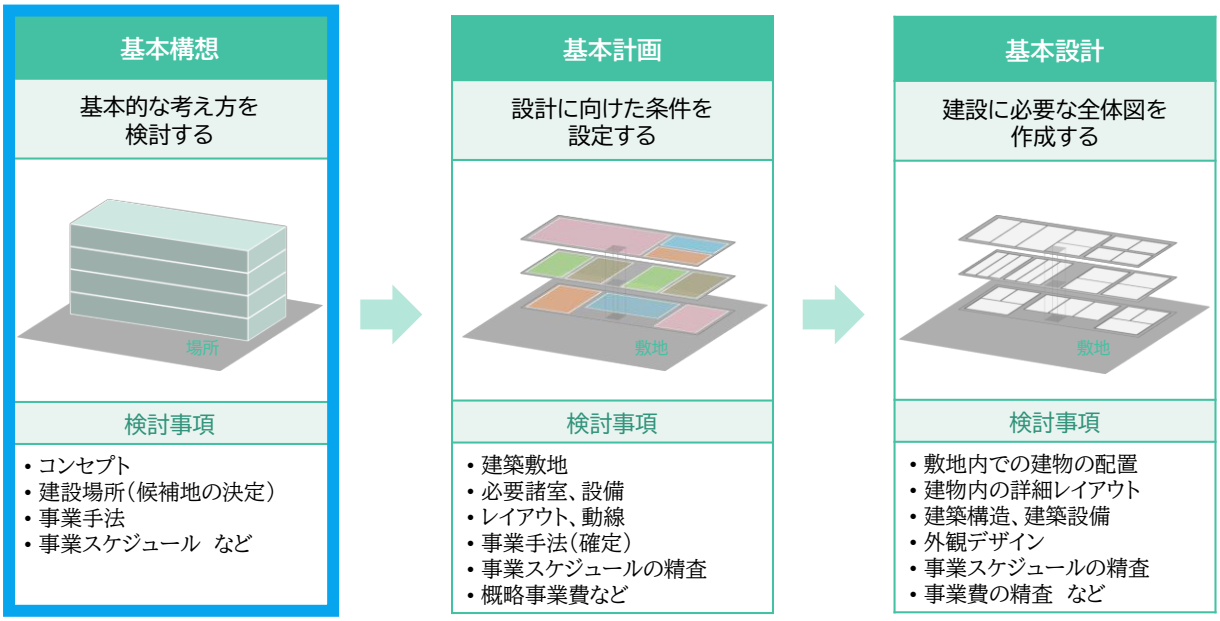
第１章 基本構想の策定にあたって

少子化や核家族化の進行、女性の社会進出による共働き家庭の増加、地域の相互扶助機能の弱体化などにより、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした社会変化は、子ども同士の交流機会の減少をもたらし、保護者の子育てに対する不安や悩み、孤立感による育児ストレスなどを招いています。

わが国では、「こどもまんなか社会」の実現に向けてこども家庭庁を創設するなど、こども政策の推進を重視した政策を実施しています。具体的には、こどもの視点で、こどもを取り巻くあらゆる環境を視野にいれ、子どもの権利を保障し、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しする方向を目指しています。

加西市では、子育て世帯の経済負担を軽減し、「子育て世代にやさしいまち」を目指して、2022（令和4）年度から「加西市子育て応援5つの無料化」を実施しており、さらなる子育て環境の充実に向けて、子どもたちや子育て世代のニーズに合わせ必要な支援を選択し利用できる、加西市の子ども・子育ての総合的な拠点施設として「（仮称）加西市未来型児童館（以下「未来型児童館」という。）」の整備を予定しています。

本基本構想は、未来型児童館の整備に向けて、加西市における子ども・子育てを取り巻く現状と課題を踏まえ、本施設に求められる役割を再整理し、現状の加西市における子育て環境として必要な機能や施設内容についてとりまとめるために策定するものです。



各段階での検討事項

加西市では未来型児童館の検討を2021（令和3）年1月より実施しています。未来型児童館に関する検討の経緯は以下のとおりです。

未来型児童館の検討経緯

日時	会議体	検討概要
令和３年 １月 27 日	第１回未来型児童館ＷＧ	・第6次総計、アクションプランに基づき整備目標年次を令和6年に設定。 ・地域子育て支援拠点事業（キッズ）、利用者支援事業（療育）、ファミサポ事業を児童館に集約。 ・立地場所は玉丘史跡公園。
２月 18 日	令和２年度 第２回子ども子育て会議	・未来型児童館の整備計画（案）R3.1.27 について提案。
４月 23 日	第２回未来型児童館ＷＧ	・「未来型児童館の受け持つ機能」をテーマに実施。
５月 17 日	第３回未来型児童館ＷＧ	・「未来型児童館とは」「未来型児童館が担う機能」をテーマに実施。
５月 21 日	定例教委事前協議	・加西 STEAM 教育の推進・・・幼児期からのものづくり体験や科学的な体験の充実、小学校・中学校での各教科や総合的な学習の時間における教科横断的な学習や探求的な学習、プログラミング教育などの充実に努める。
５月 27 日	第４回未来型児童館ＷＧ	・「各機能に必要な床面積、施設配置」をテーマに実施。 ・整備場所は、健康福祉会館の拡張と増改築案、玉丘史跡公園内でのセンター機能型児童館の新設案の2か所。
６月３日	教育委員会内 未来型児童館ＷＧ 検討状況報告	・STEAM 教育に取り組めるようソフト面だけでなくハード面でも考えておく。 ・外観はシンボリックなものに。
６月８日	第５回未来型児童館ＷＧ	・「各機能に必要な床面積、施設配置」「開設場所」をテーマに実施。 ・健康福祉会館拡張と増改築案、玉丘史跡公園内でのセンター機能型児童館の新設案に対する意見交換を実施。
６月 21 日	第６回未来型児童館ＷＧ	・「WG案とりまとめ」をテーマに実施。
６月 22 日	第６回定例教育委員会	・未来型児童館WG検討状況について報告。
９月８日	第７回未来型児童館ＷＧ	・「アンケート設問」「実施方法」をテーマに実施。
９月８日	第１回加西 STEAM 教育 オンライン会議	・未来型児童館を STEAM 教育の拠点としても活用していくことを検討していく。
９月 21 日	第８回未来型児童館ＷＧ	・「アンケート設問」「子ども子育て会議への検討状況報告」をテーマに実施。
10 月 11 日	第９回未来型児童館ＷＧ	・「アンケート設問」「子ども子育て会議への検討状況報告」をテーマに実施。
10 月 18 日	令和３年度 第１回子ども子育て会議	・設置場所、施設規模、意向把握のためのアンケート設問の概略説明を実施。
11 月 25 日	令和３年度 第２回子ども子育て会議	・前回の検討状況報告の補足説明。
令和４年 ２月 21 日	令和３年度 第３回子ども子育て会議	・検討状況報告と意見交換。

第２章 子育てを取り巻く環境

１．子どもたちを取り巻く動向・社会潮流

１）国の子育てに関する動向

国の子ども･子育て支援については､｢少子化社会対策基本法｣(2003(平成 15)年)等に基づき､総合的な施策が講じられてきており､近年では以下のような動向があります。

- 「こども家庭庁設置法」「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」「こども基本法」が成立
- 一連の成長過程において、良質かつ適切な保健、医療、療育、福祉、教育の提供、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや体験ができる、全ての子どもが、施策対象として取り残されることなく、当事者として持続可能な社会の実現に参画できるよう支援
- 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を掲げる学習指導要領の改訂
- 文部科学省より GIGA スクール構想、学校教育における STEAM 教育など教科横断的な学習が進行
- 児童館ガイドラインの改正（相談対応や情報提供の充実、全てのこどもの居場所づくりの拠点）

２）県の子育てに関する動向

兵庫県では､新学習指導要領に基づき幼児教育から高等教育までの各学校段階間の接続を重視しながら､｢確かな学力｣｢豊かな心｣｢健やかな体｣をバランスよく育成することが求められており､近年では以下のような動向があります。

- 科学技術人材育成のための理数教育の充実やプログラミング教育、兵庫型「体験教育」の新展開など「生きる力」を育む教育の充実
- ICT 等の先進的な学習基盤の整備や社会教育施設の充実などの学習環境のハード的な整備とともに、シニアなど多様な担い手、企業、NPO、地域コミュニティ等との地域全体の協働による子育ての推進

３）社会潮流

新型コロナウイルス感染症の発生､子どもの貧困､生活様式等の変化､教育の ICT 化など社会の急速な変化がみられます。

- 新型コロナウイルス感染症の発生による健康への影響、長引く学びの機会喪失に伴う育ちへの影響、中程度以上のうつ症状がある子どもの増加
- 子どもの貧困率の増加
- 子育て相談相手の不足、児童虐待の増加
- IoT、ビッグデータ、AI 等の急速な発達（超スマート社会（Society5.0）の到来）

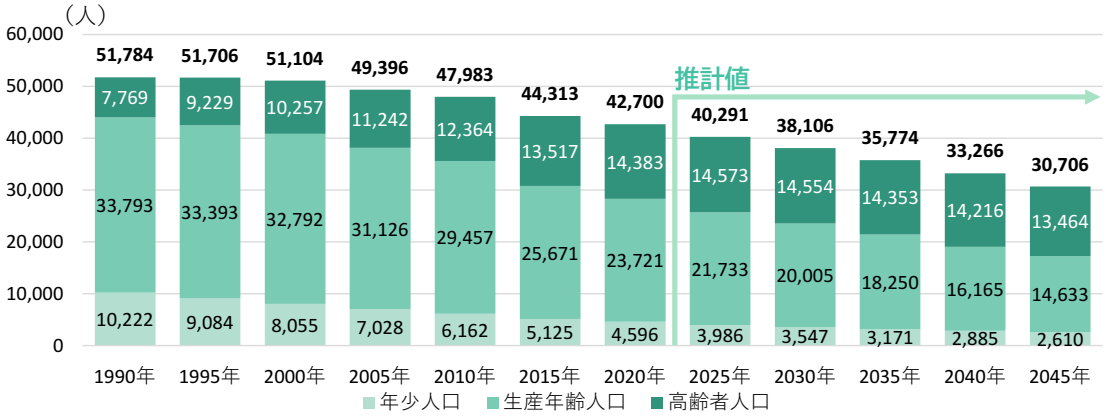
2．加西市の子育てに関する現状

1）人口動態

(1)人口の推移

加西市では慢性的な人口流出が続いており、1986(昭和 61)年度の 53,056 人をピークとして人口減少が続いています。また、2020(令和2)年の国勢調査では高齢者人口割合が 33.8%、年少人口割合は 10.8%と少子高齢化も進行しています。

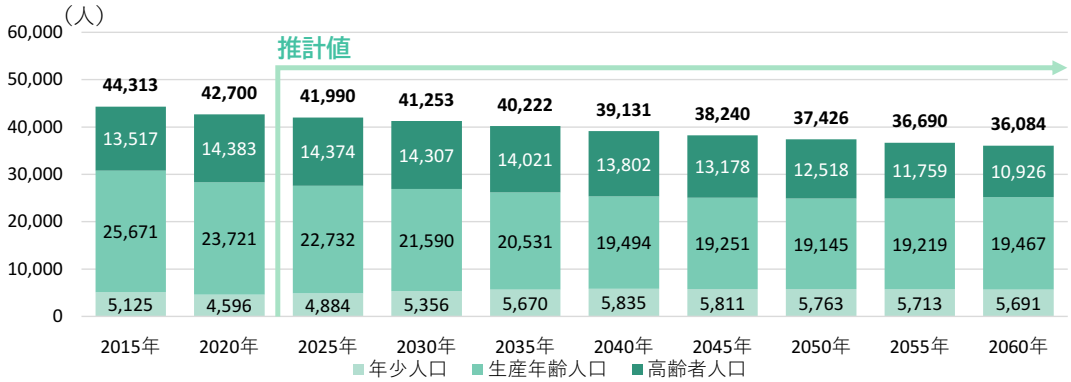
国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研という)が示す将来推計人口及び市地域創生戦略で作成した将来人口推計ともに将来にわたっても減少傾向が続く予想が示されていますが、市独自の子育て支援施策等により社人研推計より減少は緩やかになると想定されています。



※2020(令和2)年は国勢調査の実績値
※推計値は 2015(平成 27)年人口をもとに推計した数値

資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」

加西市の国による将来推計人口



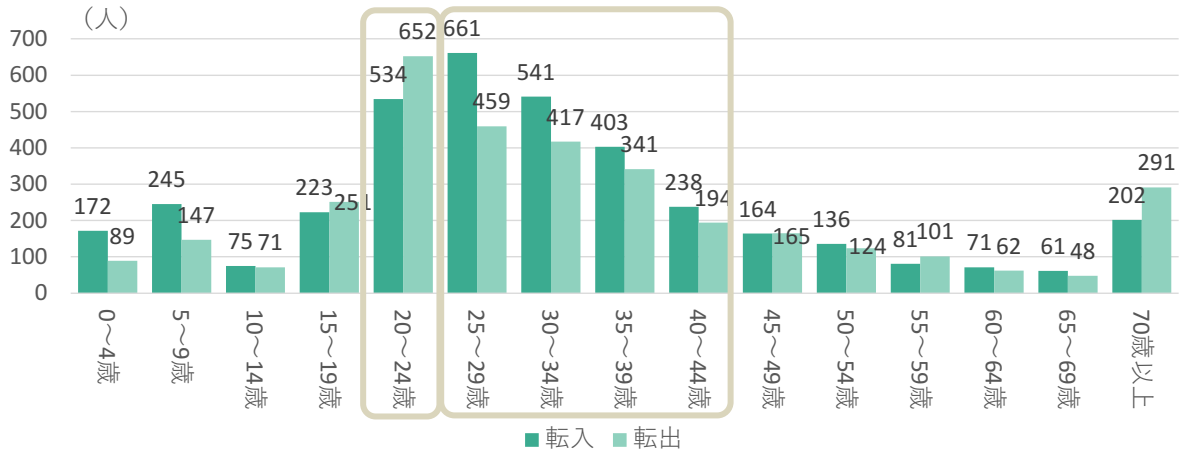
※2020(令和2)年は国勢調査の実績値
※推計値は 2015(平成 27)年人口をもとに推計した数値

資料:第2期加西市地域創生戦略

加西市の将来推計人口

(2)社会動態

社会動向は、2020(令和2)年の国勢調査では、就職のタイミングとなる 20～24 歳が流出している状況です。また、25～44 歳で転入が転出を上回っています。



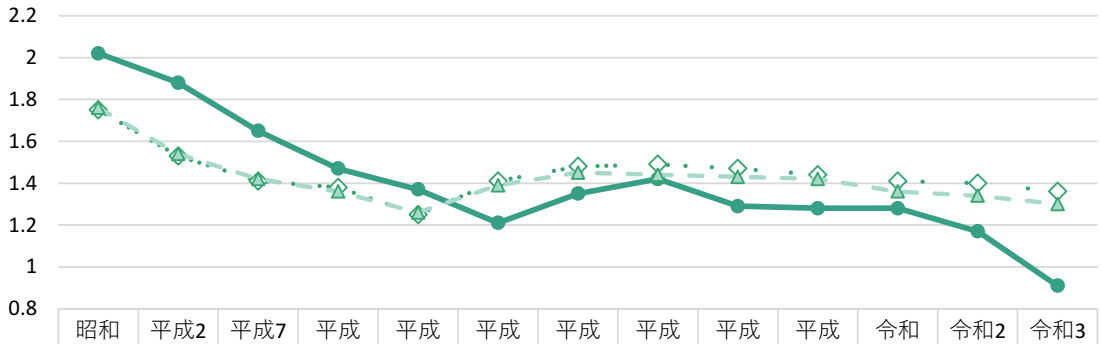
資料:2020(令和2)年国勢調査

年代別転出入の状況

(3)出生率

加西市の合計特殊出生率は、1985(昭和 60)年時点の 2.02 より減少傾向で推移しており、2021(令和 3)年では 0.91 となっています。

2010(平成 22)年以降は全国及び兵庫県を下回る水準が続いています。



	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
加西市	2.02	1.88	1.65	1.47	1.37	1.21	1.35	1.42	1.29	1.28	1.28	1.17	0.91
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	1.49	1.47	1.44	1.41	1.40	1.36
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.34	1.30

資料:加西市統計書

合計特殊出生率の推移(兵庫県及び全国との比較)

２）加西市における特徴的な子育て支援に関する取組

(1)加西市子育て応援5つの無料化

加西市では、子育て世帯の経済負担を軽減し、「子育て世代にやさしいまち」を目指して、2022（令和4）年度から「加西市子育て応援5つの無料化」を実施しています。

【加西市子育て応援５つの無料化】

１．保育所・認定こども園の保育料の無料化

- ０～５歳児までの保育料が加西市民は無料になります。認可外保育施設でも、３～５歳児は 37,000 円、０～２歳児は 42,000 円を上限に補助します。（所得制限なし）

２．全保育・学校施設の給食の無料化

- 保育所･こども園･小学校･中学校･特別支援学校のすべての給食費を市が全額負担します。保育所･こども園は認可外も対象です。（所得制限なし）

３．乳幼児・こどもの医療費の無料化

- 高校３年生（18 歳到達の年度末）までの保険診療に関わる自己負担額は外来、入院ともに無料です。（所得制限なし）

４．乳幼児を養育する世帯にオムツ等の無料化

- 毎月１回、子育て経験のある配達員等が子育て用品（3,000 円相当）をお届けし、子育ての相談や情報提供をします。（生後３か月～満１歳まで、所得制限なし）

５．病児病後児保育料の無料化

- お子様が病気で学校やこども園などに通えず、保護者が自宅で看護できない場合に、クリニック併設の保育室で一時的に無料で預かります。（所得制限なし）

(2)教育

加西市では正解のない問題にチャレンジし、他者と協働し、「あったらいいな」「できたらいいな」を創造していく、20 年後の加西の未来を切り拓く、「3C 次世代型人材」を育成することを目標に、全国においても先駆けとなっている「加西 STEAM」をスタートさせています。

＊「STEAM」とは、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、芸術/文系(Arts)、数学(Math)の 5 つの英単語の頭文字を組み合わせた造語

＊「STEAM 教育」とは、各教科での学習を実社会での問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

＊「加西 STEAM」とは、STEAM 教育を通して「3C 次世代型人材」を育成する新しい教育ビジョン

資料:加西市

加西 STEAM 教育の考え方

3）子育て支援施設

(1)施設の立地状況

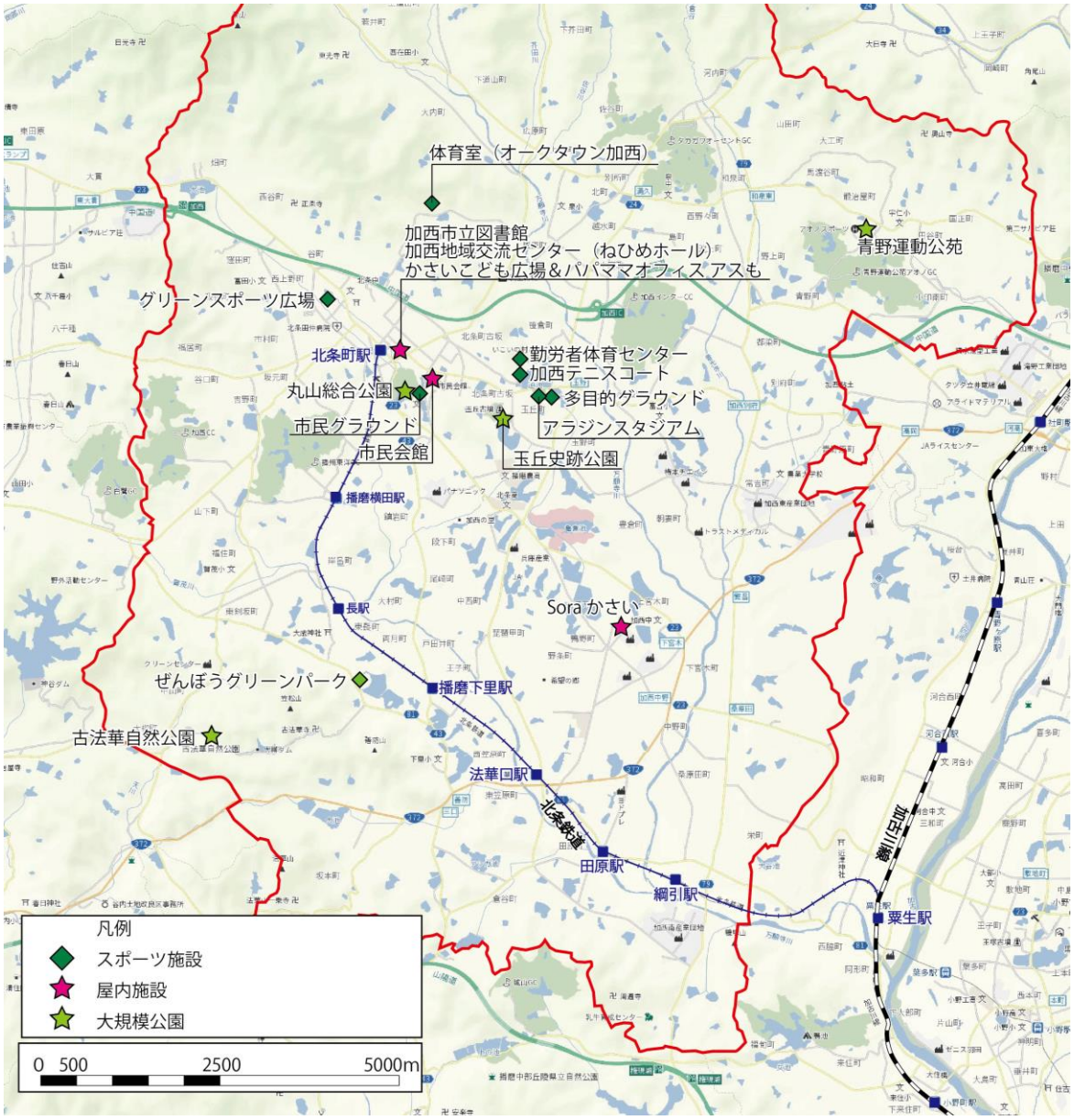
加西市の子育て支援施設は、北条町駅周辺に集積して立地しています。つどいの広場や親子で遊べる遊戯施設とテレワークセンターが融合した「かさいこども広場＆パパママオフィスアスも」など、子育ての相談や乳幼児の遊び場等の施設は多い状況です。

一方、小中学生以上の児童・生徒が室内で活動できる施設は少ない状況です。

出典:© NTT インフラネット

※© NTT インフラネットの図をもとに類似施設等の資源をプロット

加西市内の類似施設や集客施設等の分布状況（学校・子育て支援施設）



出典:© NTT インフラネット

※© NTT インフラネットの図をもとに類似施設等の資源をプロット

加西市内の類似施設や集客施設等の分布状況（公園・スポーツ施設）

加西市では健康福祉会館や市役所、総合教育センターなどで子育てに関する相談を実施しています。また、ほくぶキッズやぜんぼうキッズなど子育てひろばでの相談も実施しています。

加西市の子育て支援窓口

相談内容	場所	日時
妊娠・出産・子育て相談	健康課　すくすく相談窓口 （健康福祉会館）	月～金 8：30～17：15
子育て相談	ほくぶキッズ（オークタウン加西） ぜんぼうキッズ（善防公民館）	子育てひろば開園時
子育て・ことば・からだや ゆびさきの発達・療育相談	児童療育室　ひまわりルーム （健康福祉会館）	月～金 9：00～17：00
母子・父子家庭相談	市役所　地域福祉課	月～金 8：30～17：00
子育て相談・養育相談	市役所　家庭児童相談室	月～金 8：30～17：00
DV 相談	DV 相談室	月～金 9：00～17：00
教育相談	総合教育センター	各相談窓口により変動あり

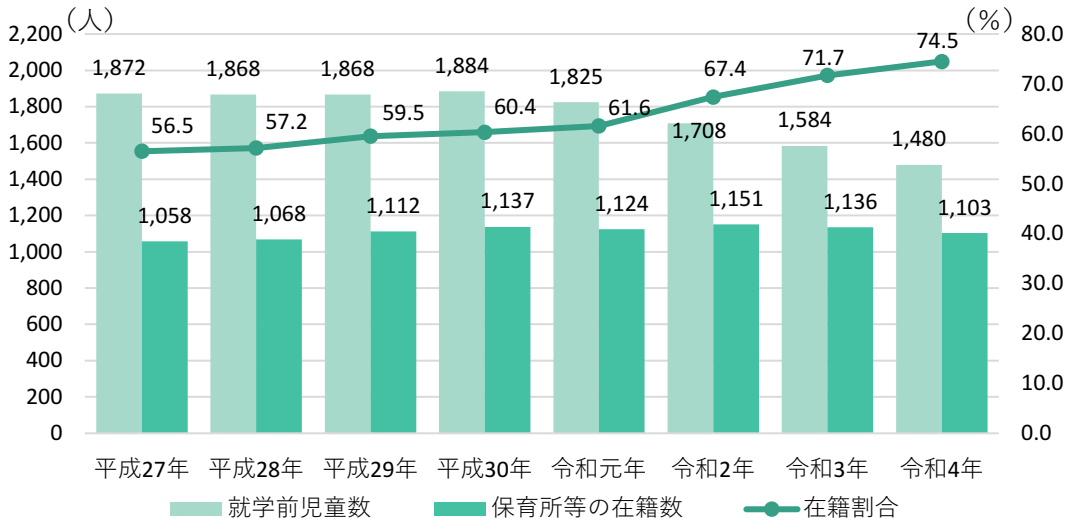
資料：かさい子育てハンドブック 2022

(2)施設の利用状況

【保育所・学童保育】

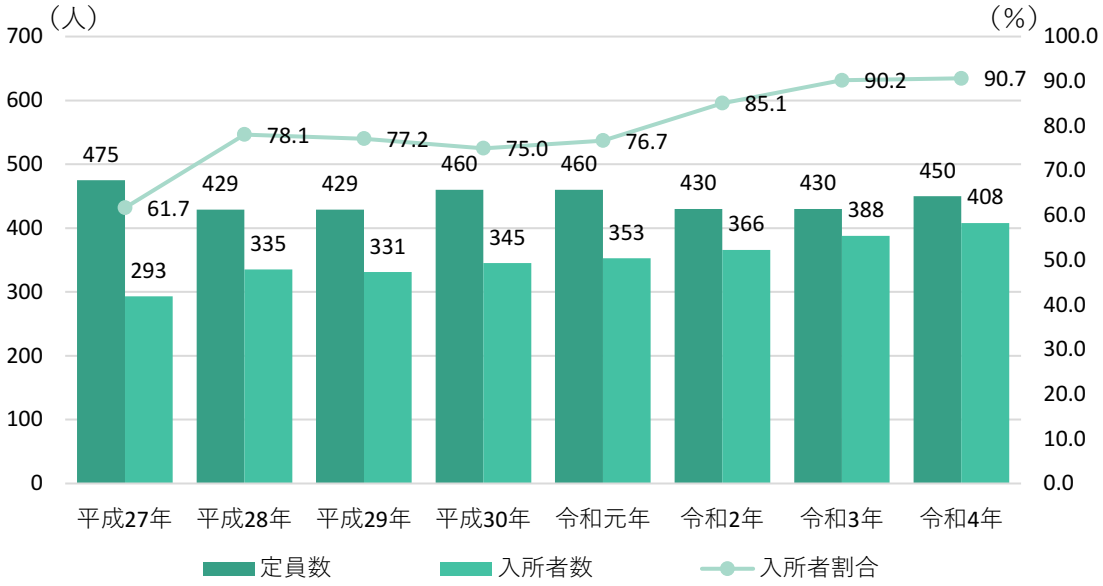
働く女性が増え、加西市の「就学前児童数」は減少傾向となっている一方、「保育所等の在籍数」は増加傾向にあり、その割合は 2022(令和 4)年では 74.5%となっています。

また、加西市の学童保育の入所者数は増加傾向であり、その割合は 2015(平成 27)年では 61.7%でしたが、2022(令和 4)年には 90.7%と入所者割合が高くなっています。



資料:就学前児童数:住民基本台帳(各年4月 30 日現在)
資料:保育所等の在籍者数:こども未来課(各年5月1日現在/受託児含む)

保育所等の在籍児童の推移



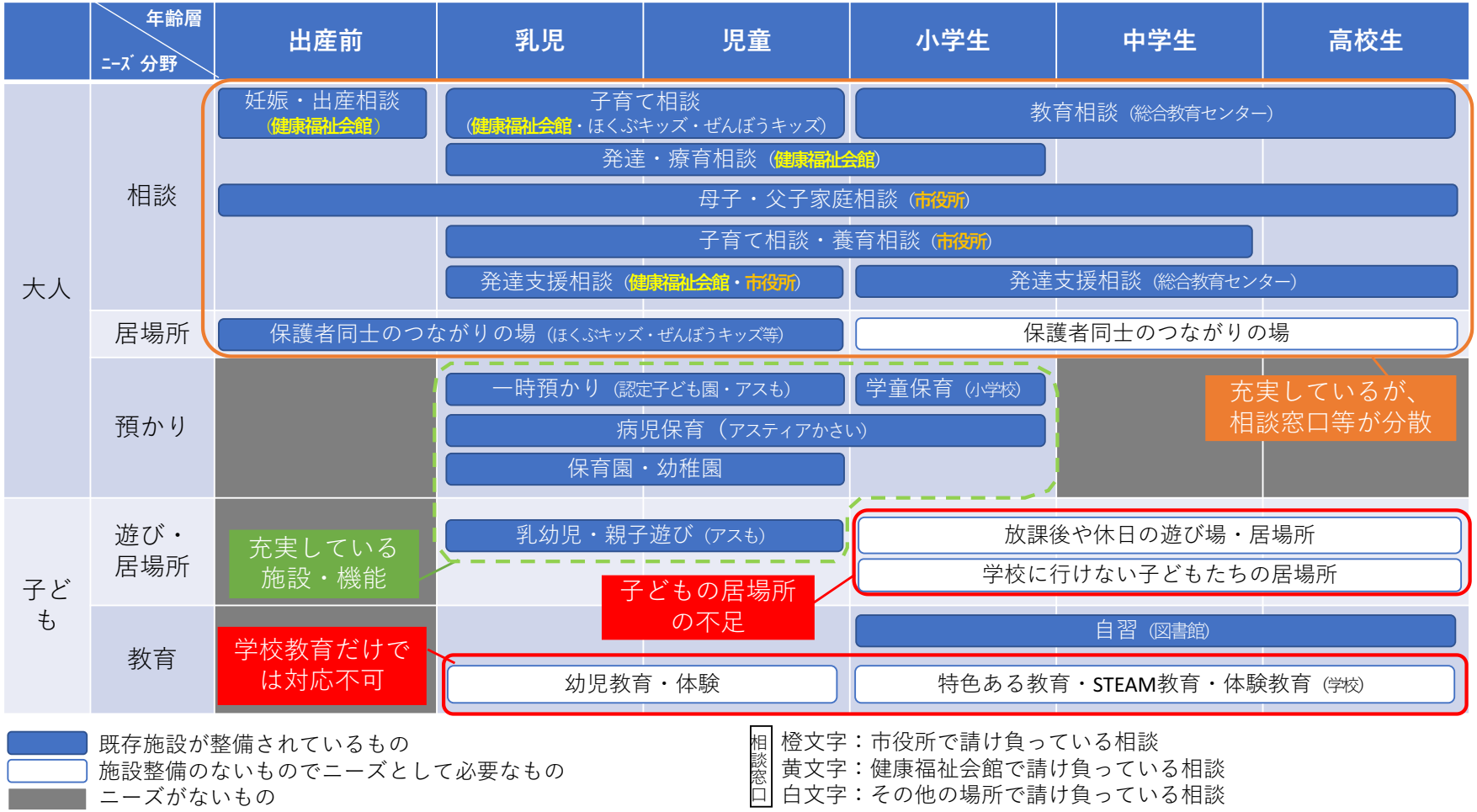
資料:こども未来課(各年5月1日)

学童保育の推移

4）市民のニーズと現在の市の施設状況

子育てに関して想定される市民のニーズと、現在の市の施設状況をみると、以下のような問題点があると考えられます。

- 相談窓口の分散：各年齢層に応じた相談窓口を運用していますが、場所が分散しているために、利便性が低く分かりにくい状況となっています。
- 小学生以上の子どもたちの居場所：乳児や幼児の預かり施設は概ね充実していますが、小学生以上の子どもたちが自分の意志で活用できる居場所が不足しています。
- 特色ある教育の実施場所：加西市は STEAM 教育の推進を掲げていますが、学校施設では十分に対応できないような機能の強化が望まれます。



市民のニーズと現在の市の施設状況

3．市民ワークショップ

1）ワークショップの概要

基本構想の策定に向けて、市民（保護者及び児童・生徒）を対象に全3回のワークショップを開催し、加西市における子育てに関する課題や未来型児童館に期待する機能などについて話し合いを行いました。

保護者のワークショップ（第1回ワークショップ）

児童・生徒のワークショップ（第2回ワークショップ）

保護者のワークショップ（第3回ワークショップ）

※弊社撮影

2）子育て、学びや遊びに対する課題

第1回、第2回ワークショップで出された子育て、学びや遊びに対する課題は以下のとおりです。スポーツのできる場所や自主学習する場所の不足は保護者、児童・生徒ともに課題として捉えています。

また、交通手段についても課題として捉えており、未来型児童館の整備に際しては交通の利便性を考慮する必要があることがわかりました。

加西市の子育てに関する課題

分類	キーワード	保護者	児童・生徒
遊び・スポーツの場	遊び	• 平日も遊べる場、子どもだけで安全に遊べる場所がない • 親子で遊べる場がない	• 校区外に出てはいけないルールがあり自由に遊びに行けない • ボール遊びやスケボーができない • 映画館・ショッピングモール等の遊び場がない
	スポーツ	• スポーツのできる場所の不足	• 身体を使って遊べる施設がない、施設利用にお金がかかる • 武道、陸上競技等ができる場所がない
学習の場	学び	• 小中高生の勉強、自主学習する場の不足	• 気軽に利用できる、調べものが可能な無料 Wi-Fi の自習室がない • 交流しながら学べる場所がない • 塾以外でもわからないことを教えてくれる場所がほしい • 専門的な本がたくさん置いてある大きな図書館がない
活動・交流の場	活動	–	• 防音のスタジオ（音楽・ダンスなどができる場所）がない • 活動を発表する場、イベントスペースがない • 色々な活動、経験ができる場所がほしい
	交流	• 中学生になる前にもっと小学生同士の交流をもちやすくしたい	• 学校にはない部活ができる場所がほしい • 外国の人とのコミュニケーション（一緒にゲーム）
相談・支援の場	相談	• 待機児童を持つ保護者の交流、情報交換、相談の場がない • 子どもが病気の際に預けられる場所がない	• 高校や大学、専門学校などのパンフレットがたくさん置いてある場所、進路相談ができる場所がない
	支援	• 保育所や学童保育のお迎えの時間に間に合わない • 何をするにも予約がいる（病気の時、預かりサポート）	–
その他	情報発信	• 本当に困っている人への情報発信ができていない、ここに来れば安心という場所がない • 窓口が分散している	–
	アクセス	• 道路、通学路が危険 • 交通の便の悪さ・移動手段の確保	• 他の市への交通手段がない • 塾、図書館が遠い

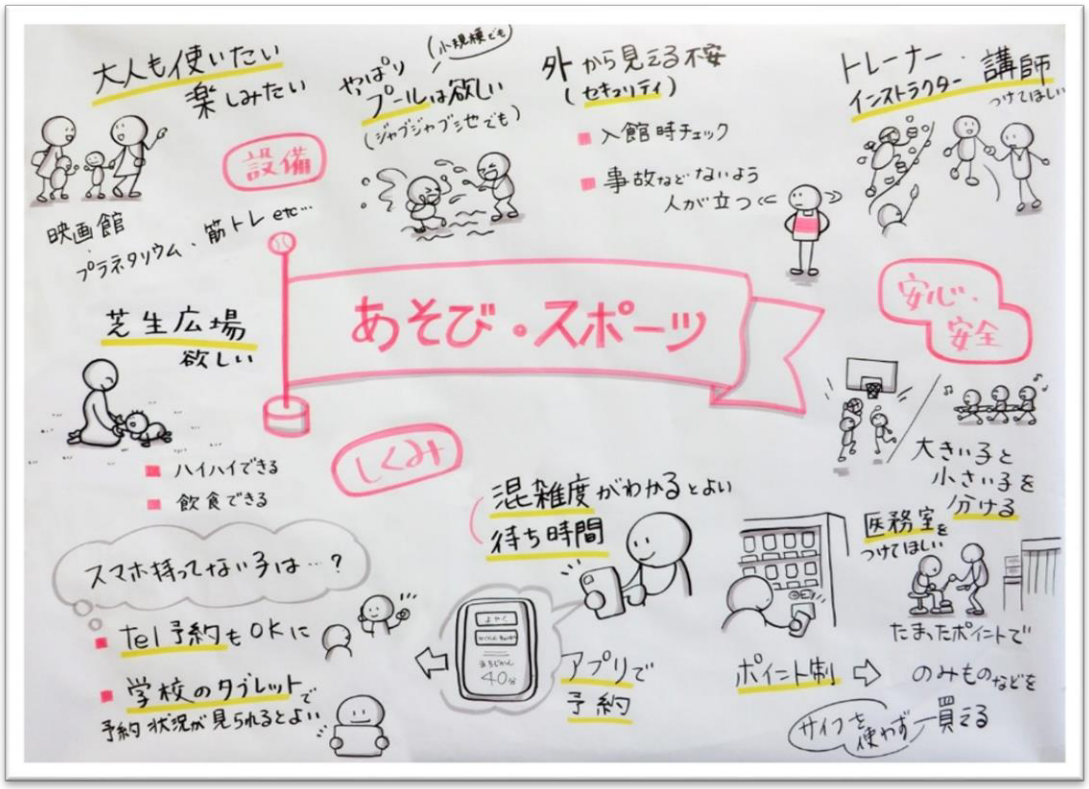
※赤文字は共通の意見

3）未来型児童館への期待

未来型児童館に期待する機能や空間の質は、第1回及び第2回のワークショップの結果を踏まえ、「遊び・スポーツ」「学び・活動・交流」「相談・支援・その他」の3つの区分で整理できます。

【遊び・スポーツ】

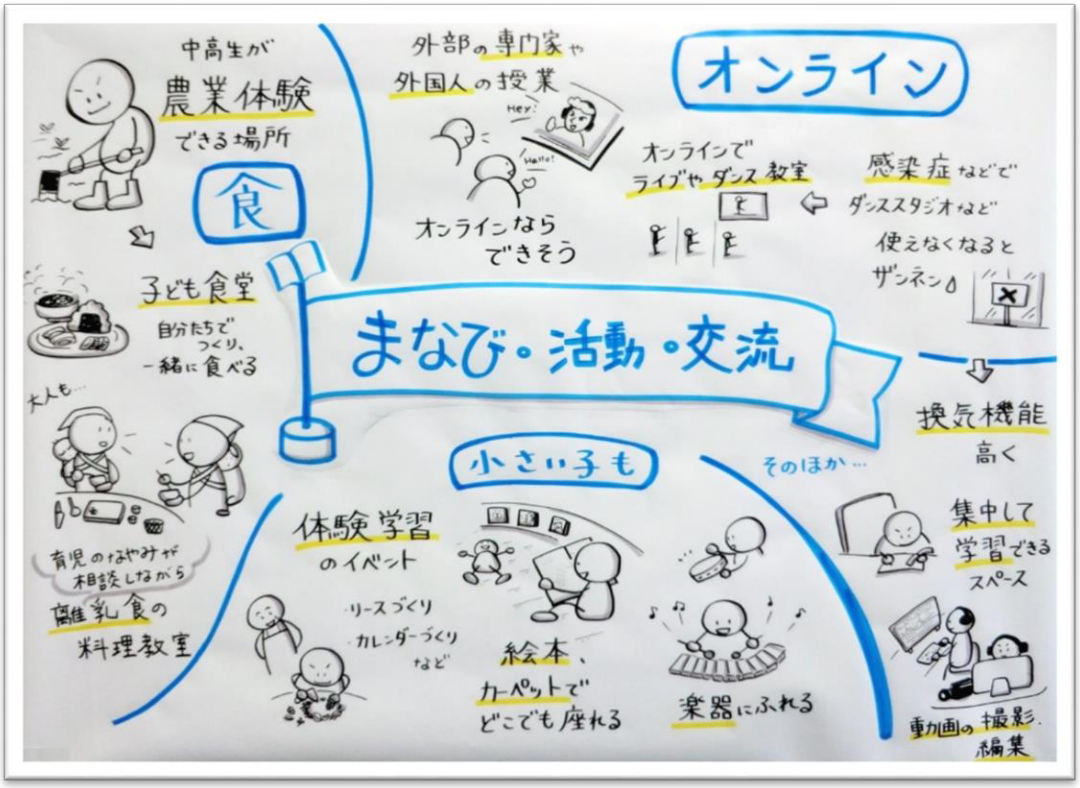
諸室・機能	第２回 WS（児童・生徒）で出た意見	←に対する第３回 WS（保護者）の意見
屋内の遊び空間	• 楽しみながら遊び学べる工作スペース • 科学的な遊び場	• 科学のインストラクターによるファシリテーション
	• 映画館、ボーリング、カラオケ、プラネタリウム	• 親も使いたい／大人も楽しめる • 民間に入ってもらって継続的に使えると良い
屋内スポーツ	• 室内アスレチック • 中高生に限らず、小さい子も遊べる場所	• ハンモックは人気 • 大きい子と小さい子を分けられると安全・安心
	• e-スポーツなど最新の技術で体を動かせる場所 • 室内スポーツ・武道ができる体育館	• トレーナーやインストラクターをつけてほしい
屋外遊具	• アスレチックができる場所	• 事故のないように見ておく人が必要
屋外スポーツ	• 球技ができるグラウンド・プール • スケートボードができる場所	• サッカーゴールやバスケットゴールの設置 • 小規模でもプールがあるとよい
休憩スペース	• 外遊びの休憩施設（木陰やベンチ等）	• 赤ちゃんがハイハイできる、飲食可能な芝生広場がほしい



遊び・スポーツに関して未来型児童館に期待すること（第３回ワークショップ）

【学び・活動・交流】

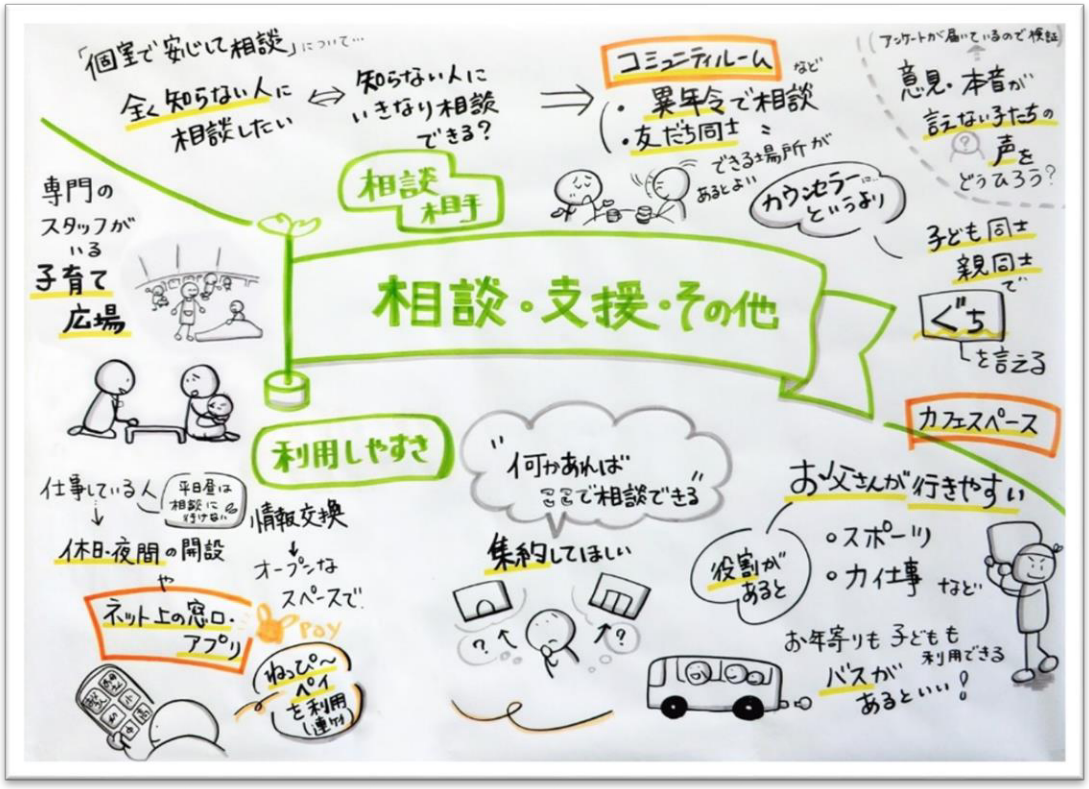
諸室・機能	第２回 WS（児童・生徒）で出た意見	←に対する第３回 WS（保護者）の意見
自習室	• 調べものがしやすく、一人で静かに勉強ができる	• 一人で集中して学習できるスペースを増やす
学びあいができる学習室	• 友達と話し合いや教え合いができる • 気軽に先輩に勉強を教えてもらえる	–
専門的な勉強のできる場所	• 専門的な本が読める、研究、調べものができる	• オンラインで専門家の授業を受けられる設備とスペース
幼児向けの学習スペース	–	• 幼児の英語、異文化教育用のコンテンツ • 小さい子向けの絵本が読めるスペース
屋外空間での学習環境	• 古代鏡の研究 • 農業や酪農を身近に感じられる場所	• 中高生が農業体験できる場所
調理室	• 加西市の野菜を使ってみんなで調理して、一緒に食べられる場	• 離乳食の料理教室 • 子ども食堂
工作室	• 加西市の木を使った工作体験	• 小さい子向けの学習体験
音楽・ダンススペース	• 色々な楽器を体験できる防音スペース • 音響が良くて空調が整ったダンススタジオ	• 楽器を持ち込んで演奏できる部屋 • 小さい子が遊べる楽器を置く部屋
イベント・交流スペース、発表の場	• 多文化交流ができる場 • 大人数が入れるイベント施設 • 誰でも来ることができるステージ	• 多国籍の子ども同士の交流の場 • 異なる学校の生徒と一緒にスポーツができる場



学び・活動・交流に関して未来型児童館に期待すること（第３回ワークショップ）

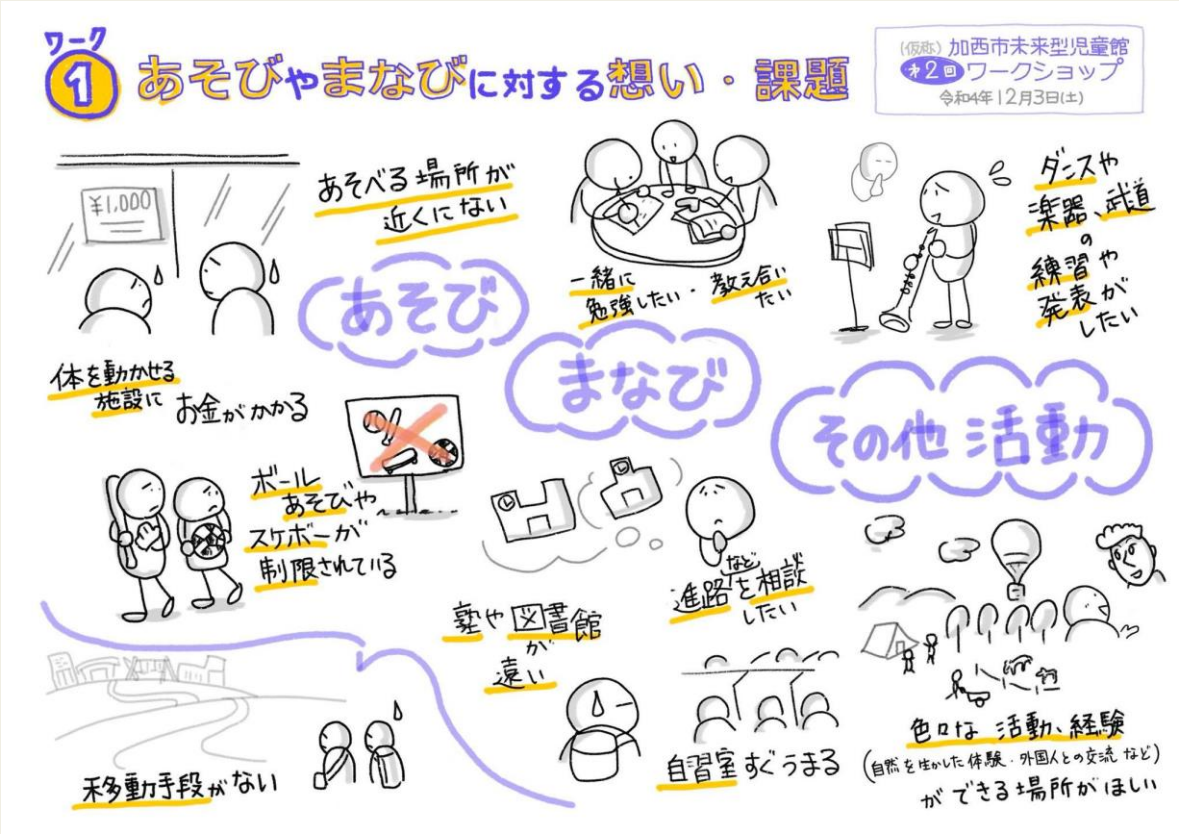
【相談・支援・その他】

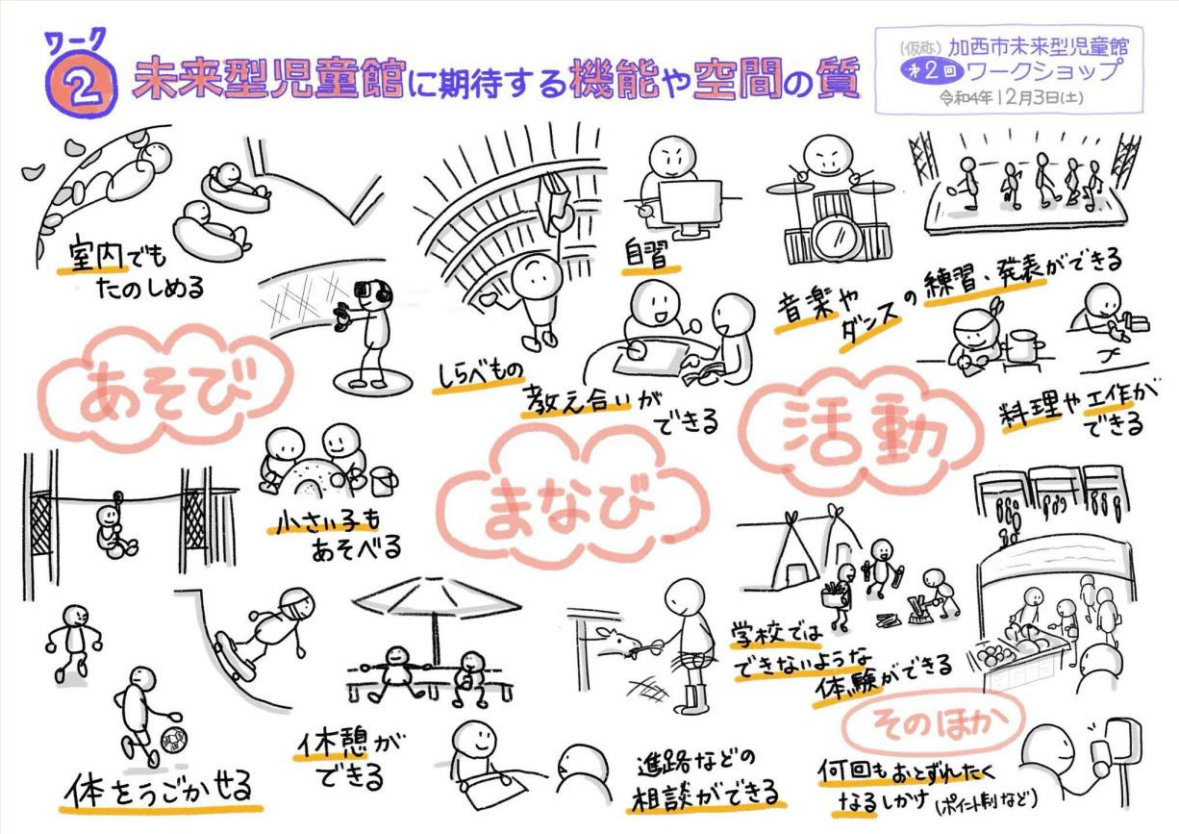
諸室・機能	第２回 WS（児童・生徒）で出た意見	←に対する第３回 WS（保護者）の意見
相談室	• 個室で安心して進路の相談ができる • 高校や大学、専門学校などのパンフレットがたくさん置いてある	• 異年齢で相談できるような場所 • 親同士　小学校から中学校、中学校から高校へと進学するときにどういう学校か情報交換したい • かしこまった相談室ではなく、ネットの窓口で専門の人が教えてくれるアプリ
買い物・軽食スペース	• 部活で使用する備品等が購入できる • イベント時、マルシェのような形で加西の名産を活かした食べ物などを販売し、加西の名産を知ってもらえる機会を創出	• 子どもだけでなく、親も愚痴が言える軽食スペース
展示機能	• 加西市の生き物について学べる展示	• コウノトリのよびよせプロジェクト、ため池が多いまちを PR する
情報発信	• イベントの情報発信 • ラジオの放送局や YouTube、インスタの収録ができる場所	• 市役所の HP に載せて情報発信
アクセス	• －	• 児童館を利用しやすくする必要がある
その他	• 毎日行きたくなる（毎日行くごとに何かある…ような）児童館 • ポイントのたまる児童館	• 「ねっぴ～Pay」を活用し親から子どもへ Pay を分けられる、空き情報と施設利用の申し込みができる



相談・支援・その他に関して未来型児童館に期待すること（第３回ワークショップ）

【トピック】児童・生徒ワークショップの結果





未来型児童館に期待すること（第２回ワークショップ）

4．加西市の子育てに関する課題

子どもたちをとりまく動向・社会潮流、加西市の子育てに関する現状や市民ニーズ等を踏まえ未来型児童館整備における課題を以下のように設定します。

■遊び・スポーツ

【社会潮流】
- 安全で安心して過ごせる多くの居場所を持つ

【加西市の現状】
- 小学生～高校生までの放課後や休日の居場所が不足

【ワークショップ】
- 屋内・屋外を問わず子どもたちが関心を持っていること、やりたい活動ができる場等が不足

▶ 様々な年齢層の子どもが、それぞれやりたいことができる環境が必要

■学び・活動・交流

【社会潮流】
- 様々な学びや体験ができる
- 超スマート社会（Society5.0）の到来等様々な学びに対応可能な環境が不足

【加西市の現状】
- 学校だけでは対応できない STEAM 教育や多様性・個性ある教育を先導する機能の強化が望まれる

【ワークショップ】
- 自主学習する場が不足
- 学校ではできない様々な活動や発表する場が不足

▶ 子どもたちに様々な学びや体験を提供し発表する場所が必要

■相談・支援・その他

【社会潮流】
- 一連の成長過程において、良質かつ適切な保健、医療、療育、福祉、教育を提供
- 全ての子どもが、施策対象として取り残されることなく、当事者として持続可能な社会の実現に参画できるよう支援

【加西市の現状】
- 子育てに関する相談窓口等の機能が健康福祉会館、市役所などに分散し、利便性が低く分かりにくい

【ワークショップ】
- 気軽に相談や会話のできる場や専門のスタッフがいる相談の場がない
- 仕事している人が相談窓口を利用できない
- 本当に困っている人への情報発信ができていない

▶ 保護者が安心して子どもと共に過ごせ、様々な相談に対応ができる窓口の集約化や仕組みが必要

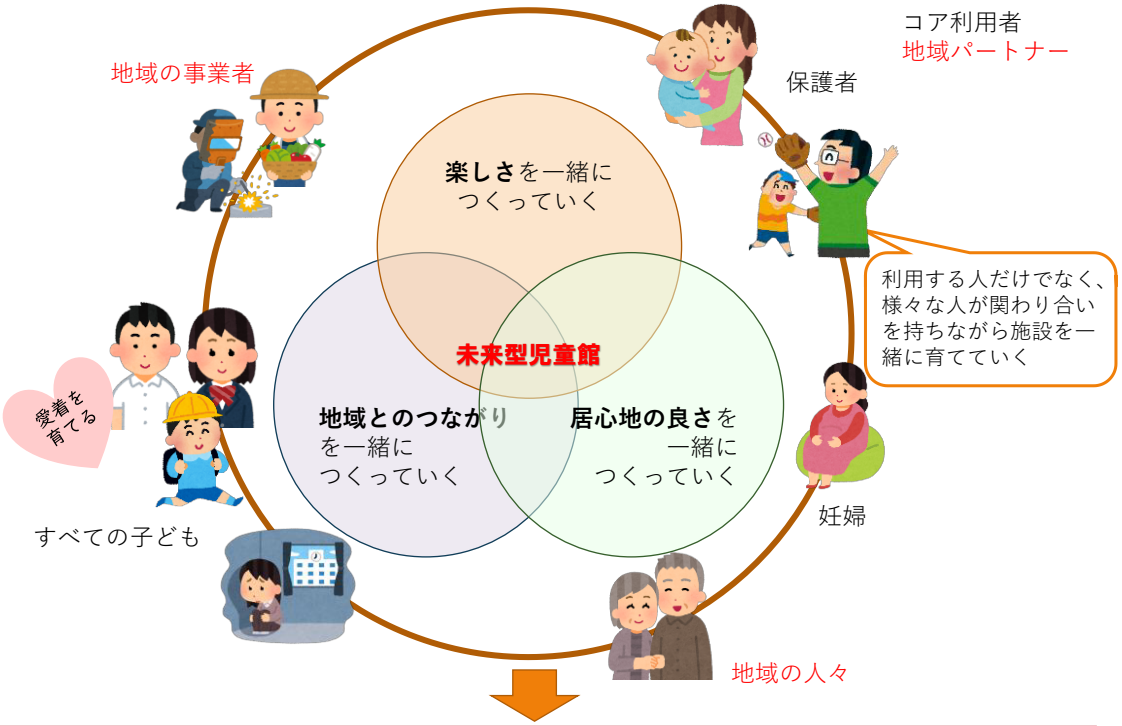
第３章 施設の目指す姿

１．基本コンセプト

１）未来型児童館の役割・利用者

未来型児童館は、加西市の子育てに関する課題を踏まえ、全ての子どもが、誰一人取り残されることなく（インクルーシブ）、小学生～高校生までの児童・生徒の放課後や休日の居場所（サードプレイス）として、学校だけでは対応できない Society5.0 社会にも対応した STEAM 教育の実践の場として多様性・個性ある教育を実現し持続可能な世界（SDGs）を共に考える場所です。また、加西市が将来に亘って子育て層に選ばれ続けるまちになるため、子どもたちが成長を通して加西市に愛着を持ち、進学や就職にて一度は市外に転出したとしても、子育てをする際には加西市に帰ってきたくなるような循環をつくることが重要です。このような好循環を生み出すためにも、子どもたちが地域とのつながりを感じながら成長し、目標を見つけ、目標に向かって挑戦していけるような環境や仕組みを、未来型児童館を核として作っていきます。

そのため、未来型児童館は、児童館を利用する保護者や子どもたちだけでなく、地域の人々や事業者など市内全ての人々が関わり合いながら、関係者の皆さんと「楽しさ」「居心地の良さ」「地域とのつながり」を一緒に作り、加西市全体で子どもたちの成長を見守り、応援していく場所とします。



地域への愛着をもち加西を大好きな子どもをみんなで育てる

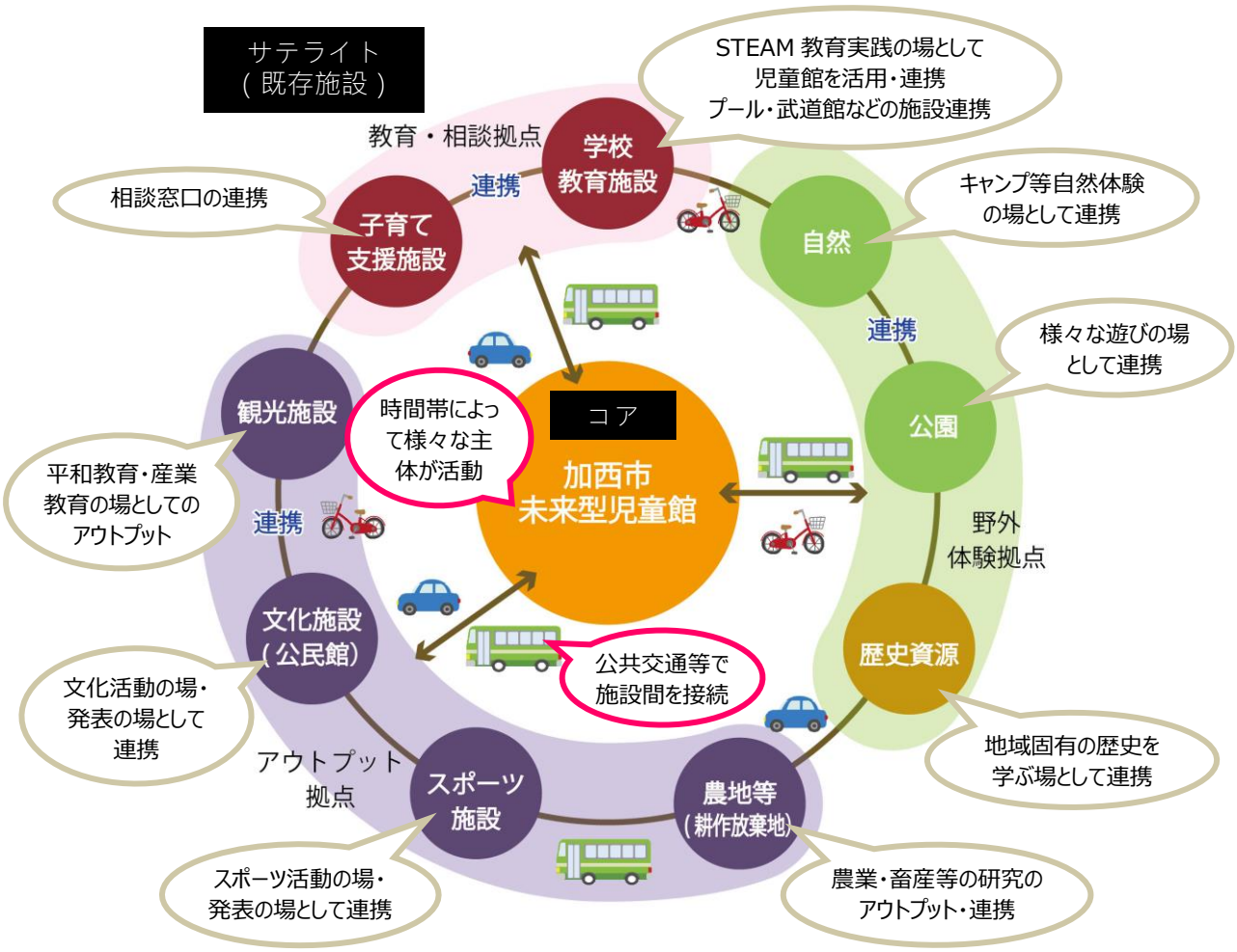
- 加西市で楽しく過ごせた、自分がやりたいことができたという思い出を親子で作る

未来型児童館の役割

2）施設整備の考え方

未来型児童館で全ての機能を充足させるのではなく、市全体の既存施設等と連携しながら、子どもたちがやりたいこと、学びたいこと、体験したいことができ、保護者が安心して子育てができる魅力的な環境を創出していきます。また、既存施設と連携しながら放課後の子どもたちの居場所、サードプレイスを創出し、その核（コア施設）として未来型児童館を位置づけます。

- 児童館（コア）だけで完結するのではなく、市内の様々な施設（サテライト）と連携させることで、子どもたちの遊びや学びの幅を広げるとともに機能の重複を避けます
- 子どもたちが知識や体験を蓄える（インプット）だけでなく、それを社会に披露する（アウトプット）場を市内各所と連携して確保し、新たな学びや挑戦の動機づけとします
- 児童館内施設の空き状況確認・予約だけでなく、コアとしてサテライトの各施設の予約や巡回図書館などの取組を実施することで、子どもたちの利便性を高めます
- 相談窓口アプリや予約システムアプリ、利用に応じてポイントを付加するシステムなどにより、毎日のように行きたくなる、利用したくなる児童館とします
- コアとサテライト間において公共交通等でアクセス性を高める等、子どもだけでも安全に児童館にアクセスできる環境を整備します



未来型児童館と各拠点の関係

3）未来型児童館のコンセプト

以上のことから、未来型児童館のコンセプトや方向性は以下の通りとします。

【未来型児童館のコンセプト】

未来型児童館、ここでは「一人ひとりが主人公」。好奇心を刺激し、なぜという疑問を持ち、新たな創造の体験を通じて、挑戦（Challenge）・協働（Collaborate）・創造（Create）の3C次世代型人材の育成に繋げる場を創出します。

性別や国籍などが異なっても、互いに尊重し合い、支え合う共生社会の実現に向けて、インクルーシブな場づくりを目指します。多様性に富んだ子どもたちや保護者・地域の方々が自由に訪れたくなる場所です。

子どもたちは様々な人や地域と関わり、自由な発想や多様な価値観から感じ学ぶことで、郷土への誇りと愛着を育み、一人ひとりの「なりたい自分」を見つけます。

10 年後、20 年後を見据えて、子どもたちが将来の夢や目標をもって、自らの個性と可能性を伸ばし広げていくことができる拠点づくりをコンセプトとします。

- 市内の全ての子どもたちが集い、遊びやスポーツなどを通して心身ともに誰一人取り残すことなく成長できる場とします。
- STEAM をはじめとする特徴ある加西での学びを学校とも連携しながら提供し、子どもたちの探求心を高めるとともに、互いに学びあう場とします。
- 安定した気持ちで子どもたちの成長を見守ることができるよう、家族も含めたみんなにとって使いやすい場とします。

【施設の方向性】

	【施設整備の方向性】	【子ども・保護者の姿】
インクルーシブな遊び場づくり	• 屋内外問わず体を動かせるスポーツ・遊びの環境 • 様々なスポーツや遊びに対応可能であり、作りすぎない、各自でカスタマイズできる空間　など	• 全ての子ども（不登校や発達障害の子等含む）の**自立を促す** • ありのままの自分で、自分の能力、強み、可能性を発揮・実現することを通して、**自分らしい生き方をする**
STEAM で未来づくり	• 学校ではできない事も含め、楽しみながら学び・体験する様々な学習環境 • 同世代や多世代とのふれあい・交流を通して、自分を表現・発表する場　など	
みんなに優しい窓口づくり	• 子どもだけでなく親も一緒に安心して相談できる場所・仕組みの提供　　など	• 安定した気持ちで子どもを見守ることができることで**子どもの幸せ力を高める**

２．導入機能

未来型児童館は、年齢や所属の枠を超え、子どもたちが自由に来館し、一緒に交流することで、子どもたちがやりたいこと、学びたいこと、体験したいことができる拠点施設であることからユニバーサルデザインを用い整備します。また、保護者が安心して子育てができる魅力的な環境を提供し、子育て支援を通じて保護者同士の交流や地域社会との交流の拠点となるよう諸室の配置や動線などを配慮した施設とします。

当面コロナの影響は避けられず、また高齢化と生産年齢人口の減少に伴い、市税収入は減少していくことが想定され、加えて、社会保障経費や公共施設の更新・改修費用などの増加が予想される中、市民ニーズを全て満たす未来型児童館の整備は大変難しい状況です。

そのため、施設整備の考え方で述べたように未来型児童館を核（コア施設）とし、既存の公共施設や民間施設と連携しながら市民ニーズに対応します。

導入機能は、3つの施設の方向性を踏まえるとともに以下の視点より設定します。

【導入機能の考え方】

1．児童館（大型児童センター）として必須及び必要に応じて導入すべきものを導入機能とする

→ 児童館（大型児童センター）として必須とされる集会室、遊戯室（屋内における体力増進指導・文化活動、芸術活動対応）、図書室及び執務室を導入機能とする。

→ 児童館（大型児童センター）として必須とされる屋外における体力増進指導を実施するために要する適当な広場を導入機能とする。

→ 児童館（大型児童センター）として必要に応じて導入すべき機能である年長児童を育成するための設備及び社会参加活動の拠点として活用するための設備（スタジオ、アトリエ、トレーニング室、小ホール、ライブラリー、喫茶室等）を導入機能とする。

2．加西市として整備が必要なもの（子どもを誰一人取り残さない）を導入機能とする

→ 発達障害児対応、不登校支援など全ての子どもが利用する施設を導入機能とする。

→ 自主学習スペースや様々な年齢層に望まれる多種多様な学びスペースなど現況で不足している機能を導入機能とする。

→ STEAM 教育など市のめざす教育に資する機能を導入機能とする。

→ 保護者が安心して子どもと共に過ごせ、様々な相談に対応ができる集約した窓口機能を導入機能とする。

導入機能

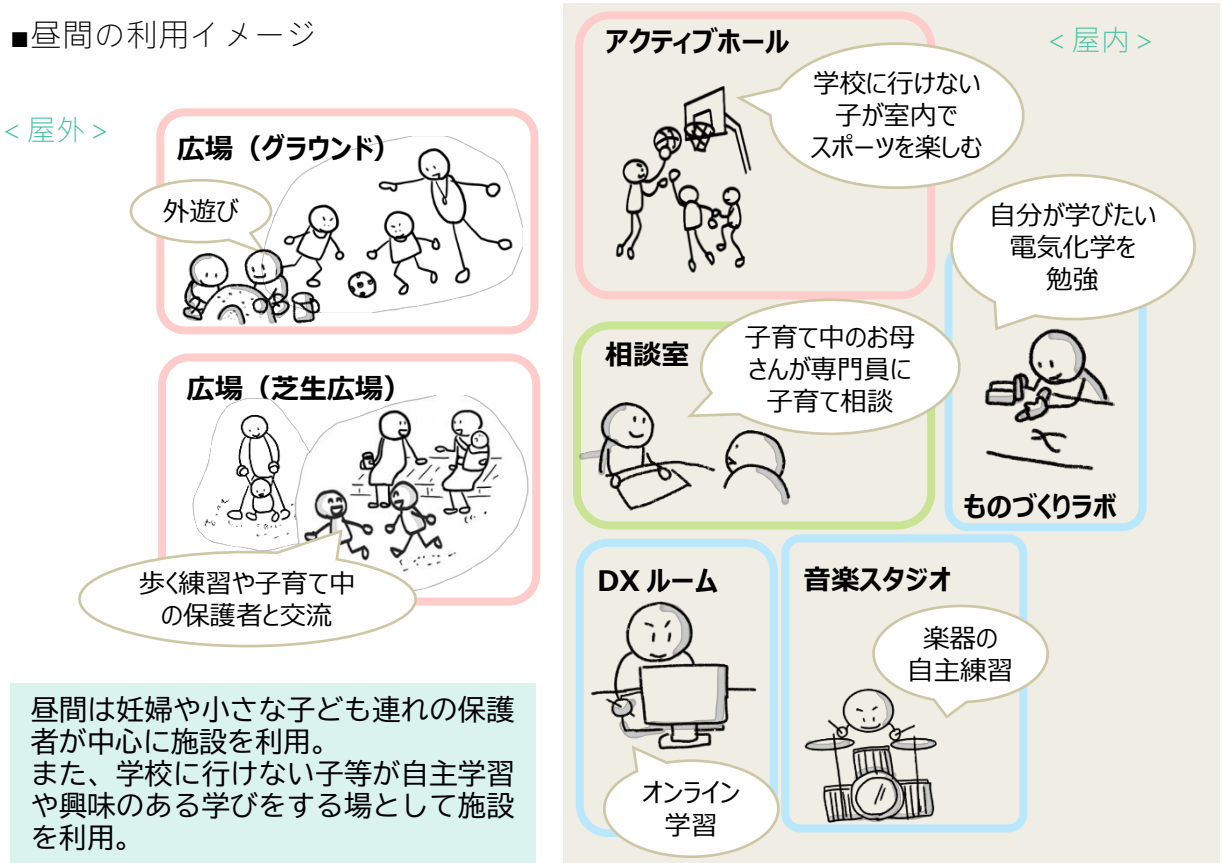
施設の方向性	中分類	導入機能	導入機能の利用イメージ
インクルーシブな遊び場づくり	天候に左右されない屋内の遊び空間	アクティブホール（室内遊具施設）	• 体を動かせる屋内アスレチック • VR を活用したバーチャルトリップ等の疑似体験 • ドローン操縦体験
	安全に遊べる屋外の遊び空間	広場（芝生広場）	• インクルーシブ遊具の設置 • 子どもたちを見守るためのベンチ • 児童館で制作した商品を販売する模擬店等のイベント
	多様なスポーツができる屋内外のスポーツの場	アクティブホール（室内運動施設）	• ランニングマシーン等によるトレーニング • 親子で楽しめる球技、ニュースポーツ • プレイパーク型グラウンド
		広場(グラウンド)	
STEAMで未来づくり	学びに対応した様々な学習の場	自習室	• 仕切り付きデスクでの学習
		学びあい学習室	• 児童・生徒が話し合いながらのグループワーク（交流カフェとの相互利用も可能）
		DX ルーム	• インターネットでの調べもの学習 • e-スポーツ • アダプティブラーニングで個人にあわせた学び • 学校に行けない児童・生徒のためのオンライン同時授業 • メタバース空間を活用した学校登校体験 • ボーカロイド音楽作成や音楽編集、映像編集
		専門学習室（図書室）	• 専門的な図書や幼児向けの絵本のコーナー • 巡回図書館、お話会、専門分野の講演会などのイベント
	学校ではできない活動、自分を表現する活動の場	音楽スタジオ	• 様々な楽器を完備 • 楽器を持ち込み、自由に演奏
		ダンススタジオ	• 友達同士のダンス
	楽しみ、遊びながら学べる体験の場	調理室	• 地域産品による料理で、産業や伝統への理解（食育） • 身近な食材の不思議に触れ、科学についての学び
		ものづくりラボ（工作・実験室）	• 身近な科学現象をテーマにした科学体験 • ロボットプログラミング体験 • 人体の構造など VR を使った疑似体験学習 • 様々な質感の素材を使用し、自由に考えながらのものづくり体験
	同世代や多世代とのふれあい・交流の場	交流カフェ	• 児童・生徒が話し合いながらのグループワーク（学びあい学習室との相互利用も可能） • 地元生産食材の販売等による地域住民との交流
		多目的ホール	• 音楽や美術の創作活動や練習・発表・展示による交流 • 児童・生徒、インストラクターやクリエーターの交流による新たな挑戦
みんなに優しい窓口づくり	安心して相談できる場所・仕組みの提供	相談室	• 専門職員に対して教育や発育に関する相談 • 小さな子どもを遊ばせながらの相談 • 夜間の相談や相談アプリなどによる気軽な相談
		交流カフェ（再掲）	• 保護者同士が飲食などをしながらの相談や交流
	進路を相談できる場	交流カフェ（再掲）	• 高校・大学等のパンフレットの設置 • 他学年との情報交換
	困っている子どもを支援する場	相談室（再掲）	• 子どもの不安を共有し、解決に向けた支援
		調理室（再掲）	• 無料または低価格による子どもたちへの食事の提供

※赤文字は STEAM 教育に関係する事項です。
※機能の兼用や多目的化により過大な施設整備にならないよう引き続き検討します。

【施設利用のイメージ例】

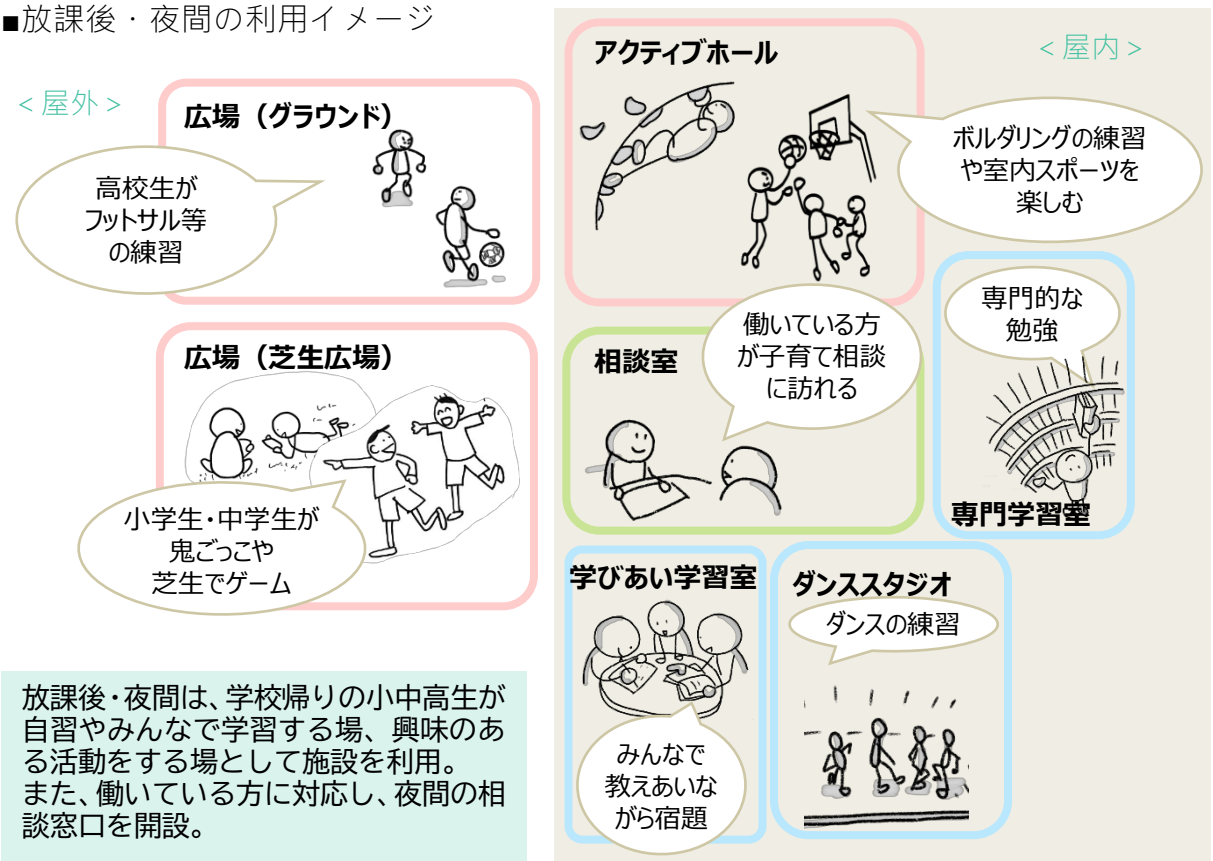
未来型児童館は、休日だけでなく、終日様々な人々が利用する場所とします。以下に平日の昼・夜の利用イメージを示します。

■昼間の利用イメージ



昼間は妊婦や小さな子ども連れの保護者が中心に施設を利用。
また、学校に行けない子等が自主学習や興味のある学びをする場として施設を利用。

■放課後・夜間の利用イメージ



放課後・夜間は、学校帰りの小中高生が自習やみんなで学習する場、興味のある活動をする場として施設を利用。
また、働いている方に対応し、夜間の相談窓口を開設。

施設の利用イメージ

第４章 建設候補地の検討

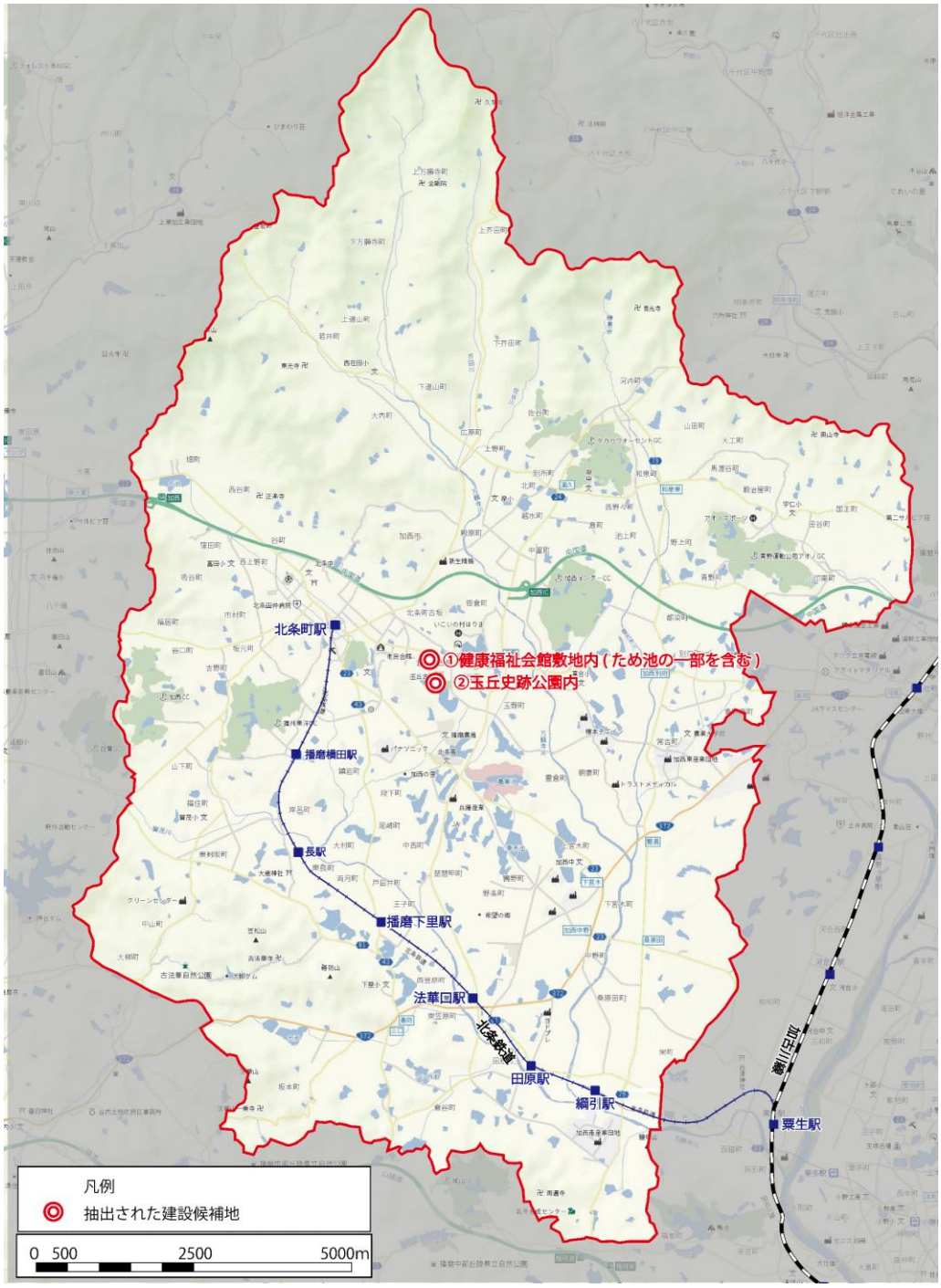
１）建設候補地について

建設地は2021（令和3）年度に実施した未来型児童館 WG で建設候補地として挙げられていた

①健康福祉会館敷地内（ため池の一部を含む）

②玉丘史跡公園内

の二箇所について比較検討して決定します。



出典：© NTT インフラネット

※© NTT インフラネットの図をもとに建設候補地をプロット

建設候補地の立地

２）評価項目の設定

各候補地の立地条件やメリット・デメリットを把握するために評価のポイントを整理し、以下の二つの視点から評価を行います。

(1)利便性に関する視点
・第1回、第2回ワークショップで保護者からも児童・生徒からも課題として捉えられていた利便性について評価します。

(2)事業性に関する視点
・事業を行うに当たっての課題等について評価します。

(1)利便性に関する視点

Ⅰアクセス性

①中心市街地からのアクセス性(児童・生徒・保護者目線)

・関連上位計画より、施設配置においては都市機能を集約させる方向性が位置づけられています。中心市街地に近い立地ほど、保護者による児童・生徒の送り迎えがしやすく、利便性が高いと考えられるため、中心市街地である北条町駅からの距離(直線)を評価します。
⇒「～1.0 ㎞以内:◎」「1.0 ㎞超～2.0 ㎞以内:○」「2.0 ㎞超～:△」

②公共交通機関によるアクセス性(児童・生徒目線)

・児童・生徒が気軽に一人でも訪れるようにするため、鉄道、コミュニティバス(KASAI ねっぴ～号)、路線バス(神姫バス)を利用したアクセスのしやすさを評価します。なお、鉄道については①と重複評価となるため本項目の評価項目から除くこととします。
⇒最寄りのバス停が停車するコミュニティバス・路線バスの系統数:
「5系統以上:◎」「1系統以上5系統未満:○」「0系統:△」

③周辺教育機関（小・中・高校）からのアクセス性(児童・生徒目線)

・児童・生徒が気軽に一人でも訪れるようにするため、[徒歩 20 分以内、自転車7分以内⇒2km 圏内]の周辺教育機関(小・中・高校)の件数を評価します。
⇒「4件以上:◎」「3件:○」「2件以下:△」

Ⅱ施設連携の可能性

④拠点施設としての適性

・未来型児童館は加西市の子ども・子育ての総合的な拠点施設とします。その上で関連施設との連携が重要となるため、[徒歩 20 分以内、自転車7分以内⇒2km 圏内]の次の施設の件数を評価します。
子育て関連施設 →認定こども園及び小規模保育所、つどいの広場(地域子育て支援拠点)、こども食堂、子育て支援機能のある公共施設等
運動施設 →公園、体育館等
集客施設 →大規模商業施設、集客施設等
⇒「10 件以上:◎」「5件以上 10 件未満:○」「5件未満:△」

⑤敷地周辺の飲食・物販店舗の有無

・飲食や買い物が出来る店舗が敷地周辺にあると利便性が良いため、想定整備位置から歩ける距離[500m 以内]にある飲食・物販店舗の件数を評価します。
⇒「5件以上:◎」「1件以上5件未満:○」「0件:△」

（2）事業性に関する視点

①法的条件

・法的な条件（都市計画法（用途地域上の建築制限）・農振法（農振農用区域の有無）・文化財保護法（周知の埋蔵文化財包蔵地の有無））の課題について評価します。

②工事の特殊性

・各候補地で必要な工事の特殊性について評価します。

③工期の確実性

・工期の確実性を評価します。

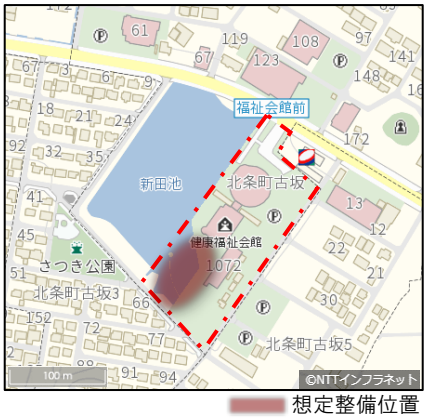
④経済性

・建設コストの増大要素について評価します。

3）建設候補地の比較評価

各候補地について比較評価を行った結果を以下に示します。

利便性に関する比較評価

項目＼候補地		① 健康福祉会館敷地内（ため池の一部を含む）		② 玉丘史跡公園内	
概要	敷地範囲	 想定整備位置		想定整備位置	
	用途地域	市街化区域 第一種住居専用地域･第二種住居地域		市街化調整区域	
	建蔽率 容積率	50% ・ 60% 100% ・ 200%		60% 200%	
	高さ制限	10m ・ —		—	
	敷地周辺環境	隣接地にため池、その周囲は住宅地。		西側隣地は住宅地、他三方は田畑。	
評価項目	①中心市街地からのアクセス性	・北条町駅から約 1.6km	○	・北条町駅から約 2.0km	○
	②公共交通機関によるアクセス性	・コミュニティバス:4系統 （市街地線、国正線、九会線、sora かさい線）	○	・コミュニティバス:2系統 （国正線、sora かさい線）	○
		・路線バス:6系統 （八千代～北条線、姫路～北条線 61･62･81 系統、社～北条線、宝殿～北条線） [最寄りのバス停:健康福祉会館、古坂3丁目]	◎	・路線バス:5系統 （姫路～北条線 61･62･81 系統、社～北条線、宝殿～北条線） [最寄りのバス停:玉丘史跡公園、玉丘町]	◎
	③周辺教育機関からのアクセス性	・3件 （小学校1件、中学0件、高校2件）	○	・3件 （小学校1件、中学0件、高校2件）	○
	④拠点施設としての適性	・22 件 （子育て関連施設 11 件、運動施設7件、集客施設4件）	◎	・23 件 （子育て関連施設 12 件、運動施設7件、集客施設4件）	◎
	⑤敷地周辺の店舗の有無	・9 件	◎	・0 件	△

※© NTT インフラネットの図をもとに敷地をプロット

凡例:◎:優れる ○:標準的 △:課題がある

事業性に関する比較評価と利用者目線のメリット

候補地 / 項目			① 健康福祉会館敷地内（ため池の一部を含む）		② 玉丘史跡公園内	
評価項目	①法的条件	都計法	・第一種住居専用地域が適用されるが、児童館は延べ面積 600 ㎡以下しか建てることが出来ない。 ⇒用途地域上は建築不可であるが、建築基準法 48 条許可(用途地域の緩和許可)により建築可能であり、設計段階において所定の協議、説明会等を実施することにより対応可能な課題である。	△	・市街化調整区域のため現況の用途地域では建築不可である。 ⇒建築するためには地区計画の策定が必要(県との協議)となるが、その実現性に課題があるとともに、協議に時間を要すことが想定される。	▲
		農振法	・農振農用地区域外。	○	・農振農用地区域外。	○
		埋文法	・周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しない。	○	・埋蔵文化財の存否が不明なため、確認調査が必要。	△
	②工事の特殊性		・ため池の埋め立てが必要となるため、埋め立て範囲の盛土工事、護岸工事が必要。	△	・特殊な工事は不要。	○
	③工期の確実性		・問題ない。	○	・埋蔵文化財の存否によっては、発掘調査が必要となり、工期が遅れる可能性がある。 ・史跡玉丘古墳群整備(修復)基本計画との調整を図る必要があるため、公園全体の再整備の検討(調整池の移設)や所管課との協議が必要である。	▲
	④経済性		・ため池の埋め立ての盛土･護岸設置工事に 6,000 万円程度の費用がかかる。また、今後詳細の調査を行い圧密沈下による対策等が必要と判断された場合には追加で費用が発生する可能性がある。	△	・埋蔵文化財の確認調査には費用がほぼかからないが、確認調査の結果、整備場所での発掘調査が必要となった場合、㎡あたり3万円程度の調査費用が発生する。	—
利用者目線のメリット			・健康福祉会館内に児童療育室や健診室といった子育て支援機能があり、既に市民から認知されていることから、相談窓口をはじめとする子育て機能を集約した際にも、今以上の活用頻度が期待できる。 ・健康福祉会館内のホールとの一体的な利用など、新たに整備する児童館との相互利用も想定され、子育ての拠点としての機能の存分な発揮が期待できる。 ・健康福祉会館はお年寄りも含めた多世代が利用する施設であるため、児童館における多世代交流の促進も期待され、多様な市民の利用が期待できる。		・玉丘史跡公園内に遺跡や古代農園といった歴史学習に適した資源があり、まちの歴史を学習する意識の醸成が期待できる。 ・玉丘史跡公園内には広大なオープンスペースとともに大型遊具があり、既に親子の遊び場として認知されていることから、継続して親子での利用が期待できる。	
総合評価			選定		非選定	

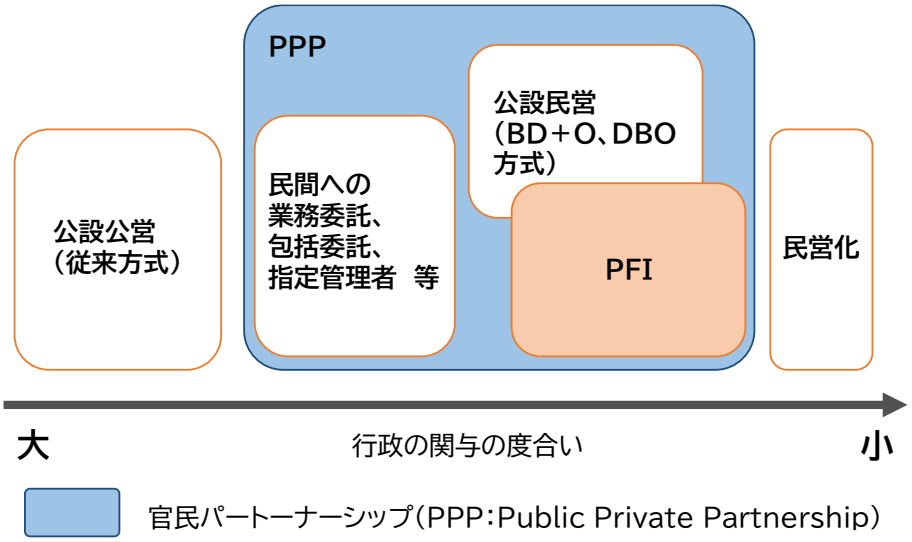
凡例 ○:標準的 △:やや課題がある ▲:重大な課題がある

以上の比較検討より、利便性について、アクセス性については二つの候補地に大きな差がありませんが、敷地周辺の飲食・物販店舗の有無については「①健康福祉会館敷地内」の方が優れていることが分かりました。事業性について、「①健康福祉会館敷地内」は都市計画法についてやや課題がありますが、設計段階で所定の対応を行うことで十分対応可能な課題と考えます。「②玉丘史跡公園内」は都市計画法について地区計画の策定の実現性に課題があります。また、埋蔵文化財の存否によっては、発掘調査のため工期の遅れやコストが増大するリスクがあります。

これらの結果を踏まえ、未来型児童館の建設地は「①健康福祉会館敷地内」とします。

１．本事業への適用が想定される事業手法

公共施設の整備・運営等に係る事業手法については、2000（平成 12）年の PFI 法の施行以降、官民連携手法が多く取り入れられてきています。

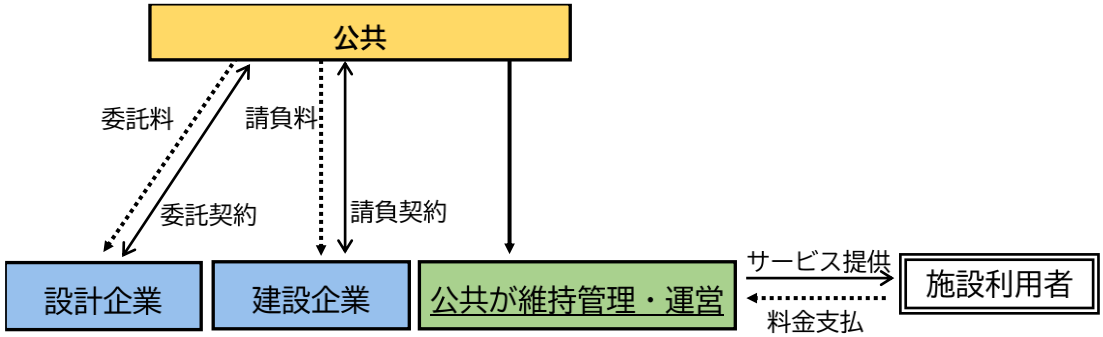


官民連携パートーナーシップの概念図

これらを踏まえ、官民連携手法を含め、本事業において適用が想定される事業手法としては、以下の方式が想定されます。具体の事業方式については、次年度以降検討してまいります。

（1）公設公営（従来方式）

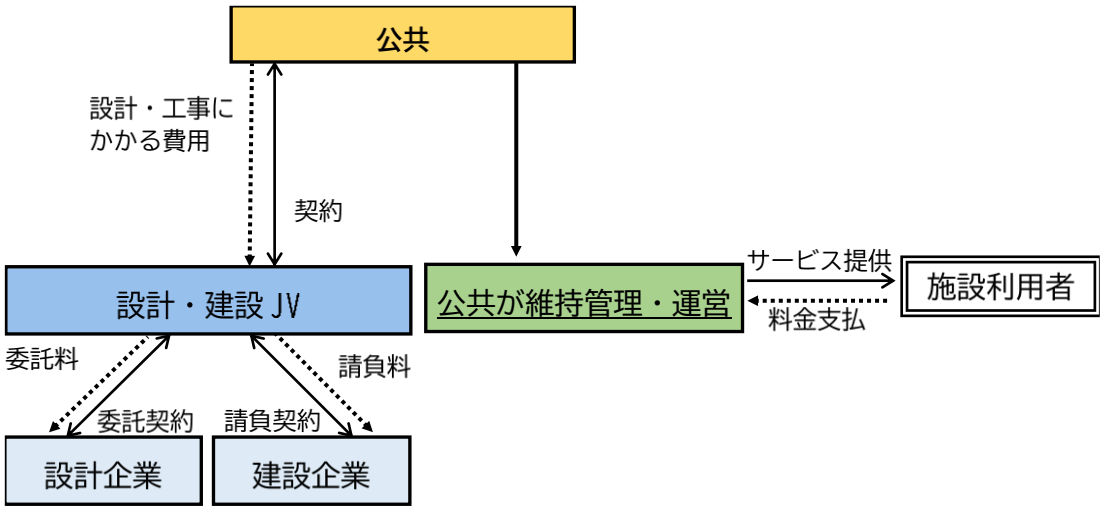
公共が自ら資金調達のうえ、設計・建設は公共が民間事業者に分離発注し、施設の維持管理・運営は公共自ら行う方式です。施設の所有権は、事業期間にわたり公共が持ち続ける方式です。



従来方式の事業スキームイメージ

(2)DB 方式

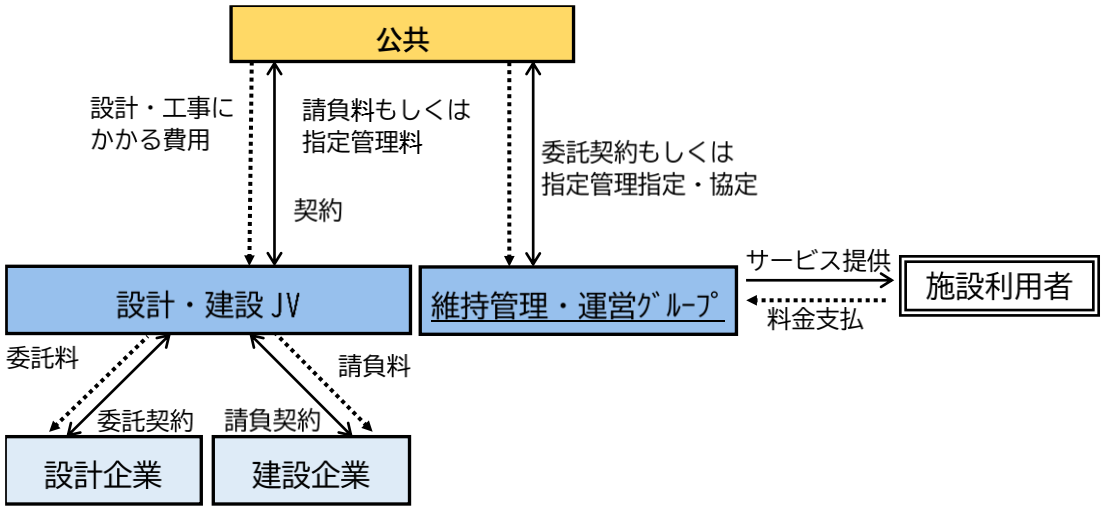
公共が自ら資金調達のうえ、設計・建設は公共が民間事業者に一括発注し、その後、維持管理・運営は公共自ら行う方式です。



DB 方式の事業スキームイメージ

(3)DB+O 方式

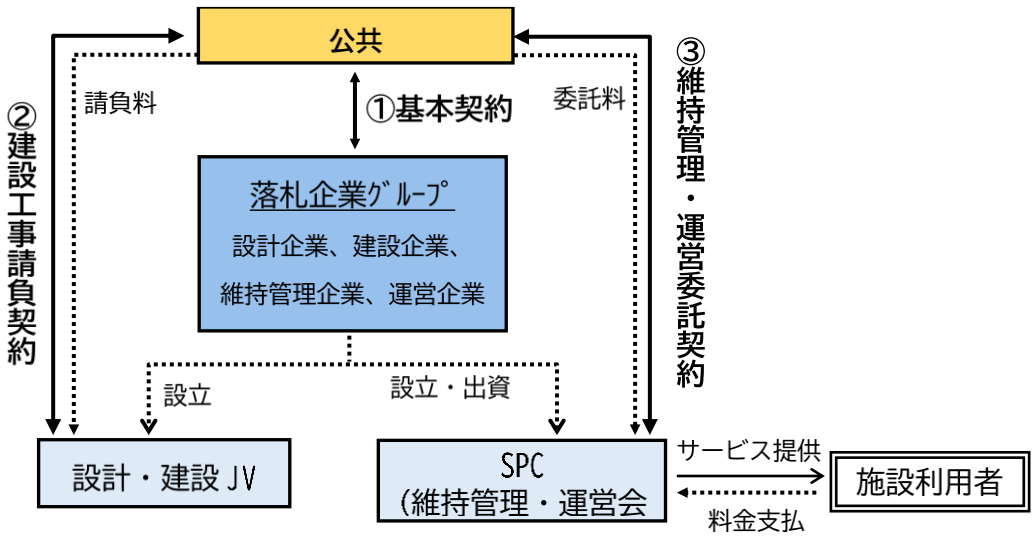
公共が自ら資金調達のうえ、設計・建設は公共が民間事業者に一括発注し、その後、維持管理・運営については別途民間事業者に委託する(もしくは指定管理者制度を採用する)方式です。



DB+O 方式の事業スキームイメージ

(4)DBO 方式

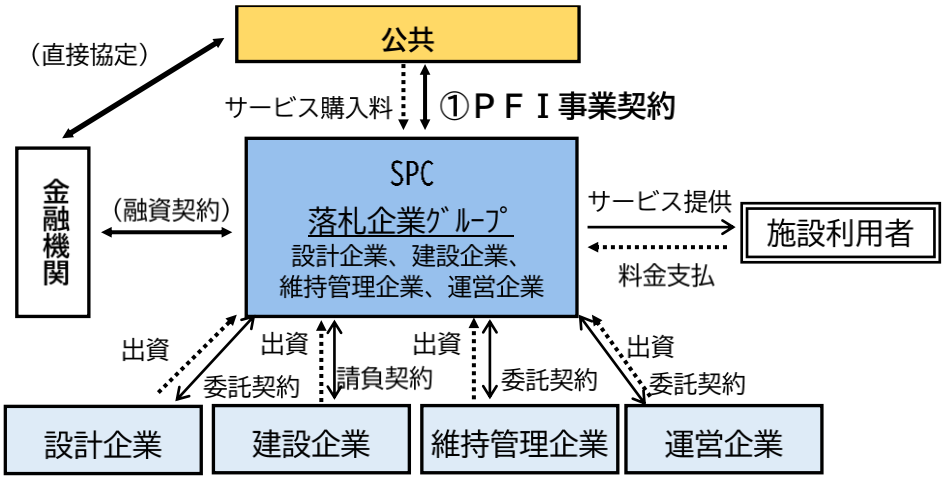
公共が自ら資金調達し、設計・建設、維持管理及び運営を公共が民間事業者に請負・委託で一括発注する方式です。



DBO 方式の事業スキームイメージ

(5)PFI 方式

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI 法)に基づき実施する方式です。



PFI 方式の事業スキームイメージ

*SPC (Special　Purpose　Company) とは・・・ある特別の事業を行うために設立された事業会社 (特別目的会社) のことです。PFI では、公募提案する共同企業体 (コンソーシアム) が、新会社を設立して、建設・運営・管理にあたることが多くあります。

各事業手法の特色

事業方式	発注区分	資金調達	運営主体	施設所有権		
				建設期間	運営期間	事業終了後
公設公営（従来）	建設/運営分離	公共	公共	公共	公共	公共
DB	建設/運営分離	公共	公共	公共	公共	公共
DB+O	建設/運営分離	公共	民間	公共	公共	公共
DBO	建設/運営一括	公共	民間	公共	公共	公共
PFI 方式						
BTO	建設/運営一括	民間	民間	民間	公共	公共
BOT	建設/運営一括	民間（同上）	民間	民間	民間	公共
BOO	建設/運営一括	民間	民間	民間	民間	―（解体・撤去）

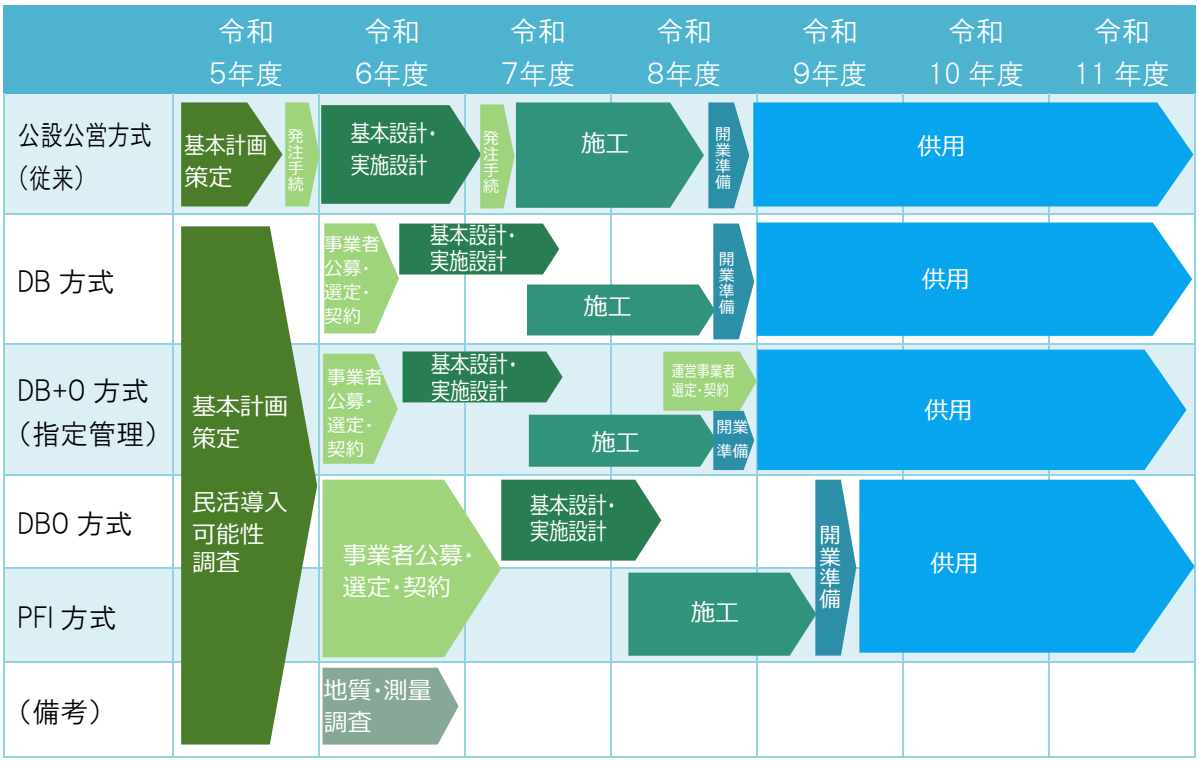
PFI 方式による事業における施設譲渡のタイミングごとの適用方式

BTO（Build-Transfer-Operate）方式	施設整備終了後
BOT（Build -Operate-Transfer）方式	施設運営（事業期間）の終了後
BOO（Build-Own-Operate）方式	事業期間終了後も民間が施設を所有し続ける、もしくは施設を解体撤去して事業終了

2．事業スケジュールの検討

「1. 本事業への適用が想定される事業手法」で整理した事業方式別の事業スケジュールは以下の通りとなります。事業スケジュールについては、事業方式によって異なってくるため、事業方式と同様に次年度以降検討してまいります。

事業方式別の事業スケジュールイメージ



3．事業手法の評価

前段での検討結果等より、下記の状況を踏まえ、本事業において DBO 方式や PFI 方式を採用することは現実的ではないと想定されることから、公設公営方式、DB方式またはDB＋O方式を採用するものとします。

- 本事業は、施設規模が小さく、PFI 手法の導入対象となりにくいこと。
- 導入機能は公共サービスがメインであり、収益性が低いこと。また、建設地は、既存施設の余剰地を活用するものであり、付帯事業として民間収益施設を整備する余裕がないこと。
- PFI 法に基づく公募プロセスをとる場合、2026（令和８）年度中の供用開始が難しいこと。

■発行年日：令和５年３月
■発　　行：兵庫県加西市教育委員会　こども未来課
■連 絡 先：Tel:0790-42-1110㈹　Fax:0790-42-8731